

社会福祉法人養徳園

平成30年度事業報告

児童養護施設 養徳園

児童家庭支援センターちゅうりっぷ

夜間・休日体制整備事業
(児童虐待緊急ダイヤル)

南小学童保育センター

南っ子食堂

平成30年度事業報告（養徳園）

1 運営全般について

平成30年度事業計画に基づき、基本的な生活援助の充実や心理面に配慮した援助に努めたほか、生き立ちの整理と育ちアルバムの実践を年間テーマとし、また、性的問題への対応、被虐待児への治療的アプローチ、職業指導、リーディングケア及びアフターケアの強化、学習指導の充実、施設養護におけるソーシャルワーク機能の充実、里親委託の推進を重点目標とし、児童援助の向上に努めた。

また、給食・環境美化・安全管理・広報・運営改善の5つの委員会を設けて、職員の一一致協力の下、施設運営にあたった。

広報紙「オアシス」を3回発行するとともに、ホームページを通じ情報の公開に努めた。

2 児童の動向

(1) 学年別在籍数（措置児童）

平成30年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	2	2	0	4	1	2	2	4	4	2	1	1	1	1	27
女	1	0	1	0	0	3	4	1	0	3	2	3	2		20
計	3	2	1	4	1	5	6	5	4	5	3	4	3	1	47

平成31年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	2	0	3	0	3	1	2	3	4	5	3				26
女	1	0	0	1	0	0	3	4	2	0	2	2	2	2	19
計	3	0	3	1	3	1	5	7	6	5	5	2	2	2	45

(2) 月別入退所の状況（措置児童）

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 数				月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職・進学	里親	
4	男	27	1*	1				26
	女	20			1*			20
5	男	28	2*					28
	女	20			1*			20
6	男	28	1*	1				27
	女	20						20
7	男	29	2*					29
	女	20						20
8	男	29						29
	女	20						20

9	男	29						29
	女	20						20
10	男	29						29
	女	20						20
11	男	29	1※	1※				29
	女	20						20
12	男	29						29
	女	20						20
1	男	29						29
	女	20						20
2	男	29		1				28
	女	20						20
3	男	28	1	1		1	1	26
	女	20	1					21

※は1日付け入退所

(3) 一時保護委託（レスパイトケアを含む）利用状況

年齢・学年・性別	児相	期間	年齢・学年・性別	児相	期間
4歳男	中央	4/4~5/1	中3女	県北	9/19~9/27
4歳男	県北	4/18~5/1	中1男	県北	9/19~9/27
16歳男	県北	5/1~5/11	16歳男	県北	11/2~11/27
小3男	県北	5/11~7/27	13歳女	中央	12/28~12/31
5歳男	県北	5/19~7/26	小2男	県北	3/4~3/13
中2男	県北	6/22~7/1	小1女	県北	3/4~3/13

一時保護ののち措置入所になったケースも含む。

(4) 高校進学、卒園生の進路等

中学卒業生

高校卒業生

3 養護の状況

(1) 給食

毎月行う献立会議での話し合いを基に、子どもの発達に必要な栄養バランス及び嗜好を考慮し食事を提供した。

朝食は、ユニットごとに作られるが、献立表を提出してもらい、栄養計算を行った。なのはな・福田ホーム・オアシス・野辺山の家にも献立表を提出してもらい、栄養計算を行った。それぞれのユニットの特色がでていた。

献立表の各ユニット・食堂掲示は継続して行った。

(2) 健康管理

①健康診断

嘱託医の Dr 花塚による健康診断を前期 5 月 24 日 後期 H30 年 2 月 24 日に実施した。
野沢歯科医院にて歯科検診 6 月 27 日に実施した。

②予防接種

日本脳炎 15 名 2 種混合 7 名 4 種混合 5 名 麻疹・風疹 3 名
インフルエンザ予防注射 28 名 ポリオ 1 名 B 型肝炎 1 名
BCG 1 名 水痘 1 名

③検診

3 歳児健診 1 名 5 歳児検診 3 名

④通院（述べ 385 名） 入院 1 名

内科 63 名（花塚クリニック、小林医院、黒須病院、きぬの里クリニック）

歯科 60 名（野沢歯科、和田矯正歯科）

眼科 23 名（早坂眼科、国際医療福祉大学病院）

皮膚科 49 名（檜山医院、国際医療福祉大病院）

小児科 35 名（済生会宇都宮病院、国際医療福祉大塩谷病院、那須日石、黒須病院、清原
台クリニック）

耳鼻科 16 名（中川耳鼻科、）

整形外科 17 名（半田クリニック、深沢クリニック、西川整形、国際医療福祉塩谷病院）

外科 6 名（独協医科大学形成外科、国際医療福祉小児外科、国際医療福祉塩谷病院、藤井
脳神経外科、国立病院栃木医療センター）

精神科、神経科 115 名（精神保健センター、自治医大子供のこころの診療科、とちぎリハ
ビリテーション、国際医療福祉大リハビリセンター、県立岡本台病院）

(3) 援助の実際

①生い立ちの整理と育ちアルバム

30 年度の年間テーマに位置づけた 2 回の園内研修を行った。

【1 回目】実施日 5 月 22 日

- 1、育ちアルバム、育てノートとは
- 2、これまでの取り組み
- 3、アンケート結果報告
- 4、育てノートについて
- 5、今後の見通し
- 6、各ユニットでの話し合い（育ちアルバム、育てノートについて）
- 7、質疑応答
- 8、園長先生総括

【2 回目】実施日 11 月 22 日

年齢段階ごとに育てノートについての検討を行いグループ毎にまとめた。

誕生前：森、小口、大島

0～1 才：福田、福澤、高島

1～3 才：まりん、田島、栗林、手塚

3 才～入学前：寺澤、桑原、万年

小 1～3 年：人見、金澤、稲田、加藤え

小 4～6 年：菅原、佐藤、饗庭、鈴木

中学生：桑畠、小林、平野、滝澤

高校生：矢部、内山、築井、薄井

② 性的問題への対応

〈取り組み内容〉

第一回（7月）

「事例検討、ユニット内の死角」

- アンケート「施設内における性加害、被害に関する意識をもち、どんな実践を行っているのか」を記入してもらい、職員全体の意識を把握し、今後の園内研修に役立てていくためのアンケートを実施した。
- ここ数年で実際に起きた性加害、被害の事例をもとに、対応方法をグループに分かれてディスカッションを行う。聞き取り方法、背景、発生の要員、予防的な視点を話し合い、今後の対応に生かす材料を出し合ってもらった。
- ユニット内の死角について、それぞれのユニットメンバーで集まり協議し合う。ユニットを図式化し、どこが死角になりやすいのか、危険場所はないか、過去に問題があった場所を再度確認し合ってもらった。

〈一回目を通して〉

- ・アンケートをとり、職員一人ひとりが性加害、被害に対しての意識が明確になったが、格差も浮き彫りになった。
- ・事例検討をして対応方法を先輩職員からアドバイスをもらったり、グループで話し合えたりして、研鑽ができたのではないか。
- ・担当ユニットの死角を再認識できた。しかし、1Fや園庭、駐車場、近隣の死角については話し合えなかった。実際外で性的問題が発生していることもあるので、要件等が必要。

第二回（2月）

「共通のメッセージ」

- グループに分かれて、場面を設定し、どんなメッセージを送り、そこにはどんな職員の思いや意図があるのかを話し合ってもらった。

〈二回目を通して〉

- ・学校行事と重なり、研修の時間が短縮されてしまった。
- ・共通のメッセージというテーマは良かったが、漠然としていて、より具体的な内容の提示ができれば、話し合いがもっと活発になったのではないか。

今年度反省と次年度検討内容

〈平成30年度反省〉

- ・参加者としてではなく、係として自ら参画する態度、意識をもてればよかった。負担が一部に偏りになってしまった。
- ・グループワークをして、各班に別れて自由に意見を出し合い、それを皆で共有出来たことは有意義であった。
- ・死角について学び、アンテナを高くすることによって未然に防げることもある。また、子どもの変化に注意し、気づける感性を養っていく必要性を感じた。また、各ユニットにおける性の課題が話し合えた。
- ・子どもへの聞き取りを、問題がなくても時々聞いていく。内容は、学校で様子など他愛のないことでもよい。それが予防策にもなるし、職員のコミュニケーション力を高めるのではないかと考えさせられた。
- ・グループディスカッションを取り入れる事で、意見交換の場を設ける事ができた。性的問題は施設内でも重要な課題で取扱いが難しい事も多い。触れたくない、関わることに抵抗がある、職員によっても様々で、今後も意見交換をする場を設け職員間の意識のズレの解消やスキルアップをしていき、子どもたちへのケアに結びつけていければ良いと感じた。
- ・テーマの範囲が広い事で着地点がどこなのかわからない部分があった。

〈平成31年度への検討内容〉

- ・他ユニット混合でのグループワークができる機会は少ないので、次年度もグループワーク、ディスカッションを取り入れて欲しい。日ごろから注意力、危機感、中腰の姿勢で持ち続けられる

ように、ロールプレイを通した聴き取りの練習をし、職員の共通理解を深めたい。

- ・性の課題にはマニュアルや具体的な答えはないことが多いが、日常から職員一人ひとりが問題に直面した時に一人で判断、対応せず、職員間で連携し、緊急対応を含め、きちんとした対応ができるよう、今後も学び続けていく必要がある。
- ・先輩職員からエピソードを聞く機会（対応も含めて）があればよかった。
- ・年度初めに係りで年 2 回の研修のテーマの土台を事前に決め、テーマに沿って話し合い、係が意見を持ちながら、話し合い園内研修の内容や係の自覚の質を上げていきたい（係全員参加）。
- ・職員間の認識や対応方法のスキル、アンテナの高さ、姿勢の格差をどのように埋めていくか、これからの全職員の課題でもあり、一人ひとりが意識する必要がある。
- ・セクシャルマイノリティについて、男の子らしさ、女の子らしさとは何か。安易な言葉かけが子ども達を傷つけているのではないか。

③被虐待児への治療的アプローチ

児童相談所による面接は、中央児相措置の 1 名(小 5 女児 1 名)月 1 回児相への通所、さらに児相の心理職員が来園し本園にて面接が行われた。県南児相措置の 1 名(中 1 男児 1 名)について、月 1 回児相の心理職員が来園し本園にて面接が行われた。また、県北児相の被虐待児フォローアップ事業に 3 名(小 4 男児 1 名、小 3 男児 2 名)が月 1 回の割合で参加し、グループワークが行われた。

施設内の心理療法は、30 年度も心理療法実施指定施設の認可を受け、20 名の児童に対してプレイセラピー、面接（心理検査、入所アセスメント面接を含む）、生活場面面接等を実施しながら心理療法を行った。実施回数は以下のとおり。

心理療法 330 回 生活場面面接 24 回 コンサルテーション 84 回

この他、直接子どもと関わらずに、児相、学校、病院等のカンファレンスや情報交換などに参加させてもらい、子どもに対して、共通の理解が得られるよう努めた。

成果と課題

前年度から引き続き、子どもの個別面接について、対象児童にはできるだけ毎週 1 回の時間を確保し、誰にも邪魔されない、自己表現の場として、さらに自分の悩みや生い立ちに向き合えるように、環境を整え治療と養育のバランスを考えながら実施してきた。子どもの中には、面接が定着し“自分の時間”という意識をもって入室する子どもも増えてきた。

さらに、今年度は学校との連携に力を入れてきた。隔週のペースで学校を訪問し、問題が起きてから話し合うというよりも、日頃から子どもの様子を共有するようになってきた。問題が起きると、子どもを挟んで、学校と施設の対立が生じやすくなる。昨年度は、学校にて子どもの逸脱行動が多々みられたが、ケアワーカーの協力もあり、学校と一緒に子どもを育て、見守るという環境が作れたのではないかと思う。また共に子どもの成長を共有できたのではないかと思われる。

ユニット・グループホームの生活や学校などで、不適応を起こす子どももいる。その多くは、不安が強く、その不安を自傷や暴力、引きこもる等さまざまな形で表現しやすく、問題が大きくなってから、面接の導入を相談されることが多い。しかし、その段階では個別の面接も拒否する傾向がみられたため、日頃の行動や様子、職員と情報共有をし、早めに面接の導入を試みている。ケアワーカーとも愛着の観点から、子どもの発達について共有し、いかに日頃の生活の中で意識的にケアできるか思案中であり、今後の課題である。

④職業指導、リービングケア及びアフターケアの強化

25 年度より職業指導員が配置された。主な目的として、退所後の社会生活を想定して、生活に必要な知識及び技能の習得を支援する。(リービングケア) さらに、施設退所後の就労を含む生活状況を見守り必要に応じた支援を行うことで、職場への定着を図り社会的自立を促すこととした。(アフターケア)

具体的な取り組みとして、高校生は栃木ユースアフター事業協同組合主催の自立支援プログラムへの積極的な参加を促し、「健康について」「SNS について」「テーブルマナー」研修などを通して自立への意識向上のきっかけ作りを行った。また職業・社会体験として『ん太郎』氏の「短

足おじさん」の会による、料理教室・陶芸体験教室が行われた。さらに退所した卒園生へは、その時々での社会適応状況に応じて訪問などして必要な支援を行った。

職員も支援意識向上のために、6月に園内研修を行った。内容は、リービングケア・アフターケアのための募金箱について、集まったお金を有効的に使うことの確認。講師を栃木ユースアフター事業協同より招いて、社会的養護のOB・OGの方にどのような支援を行っているのか現状と課題の報告をいただいた。地域小規模養護施設の職員より、高校卒業・卒園・進路決定までの流れについて報告があった。卒園後も長く見守り続け、必要な支援を行うことの重要性を再認識した。

⑤ 学習指導の充実

4月	園内研修打ち合わせ
	園内研修 学習場面で困っていることについてのグループ討論
7月	公文集中勉強会（算数）
10月	公文ミニ表彰（学年超え・学年相当・多枚数・多読）
11月	創立記念日 公文表彰1名 公文指導勉強会 第2回「算数指導法」
3月	公文ミニ表彰

（反省）

今年度の園内研修は、公文だけでなく学習全般を通してのグループ討論を行った。困っていること、上手くいっていること等の情報交換の場にもなった。

夏休みには公文集中勉強会を行った。どの子供も集中し1時間～3時間やり続けた。

昨年から引き続き、④「学年超え」、⑤「学年相当」、⑥「多枚数」「多読」のミニ表彰を行った。子供達が自らコツコツ学習できるきっかけになればと願う。

（今後）

宿題や公文の取り組みは定着してきている。引き続き学習習慣の定着と、職員のスキルアップを図っていきたい。

公文は、学年相当・学年超えの子供達を増やしたい。そのためには、月々の枚数を増やさなければならず、さらなるユニット公文の充実が不可欠である。

⑥ 施設養護におけるソーシャルワークの充実

「事例検討（親とのかかわり方について）」

H30年9月の園内研修において、「親とのかかわり方について」という研修を行った。児家センちゅうりっぷでかかわる事例を2つ紹介し、子どもと保護者に直接、相談や一時預かりをしながら関係機関と協働して支援を見立て、情報共有をしていることを伝えた。参加者とのグループワークでは不登校になる原因をイメージするワークと、ジェノグラムを作成するワーク、マイナスのストーリーをプラスのストーリーにするリフレミングを行った。保護者や関係機関という大人を相手とした業務の中で、ケースをどのように考えるか、またジェノグラムといった必須のスキルを確認する研修とした。

「事例検討（記録の書き方について）」

H31年1月の園内研修においては、児童家庭支援センターちゅうりっぷで実際に用いる記録の書き方を体験した。①記録をつける大切さ。その意味。②ちゅうりっぷで実際に使用する記録法（生活支援記録法）③練習とした。記録が重要であることは多くの参加者に共有されているが、今回紹介した生活支援記録法は利用者の状況、支援者の関わり、アセスメント、プランニングがわかりやすく整理できるメリットを持っている。初めて見る人には慣れないワークであったと思われる。どのように記録を残すのかは古くて新しい課題であることを考えると、今後も継続して取り上げる必要があるかもしれない。

今後の課題

ソーシャルワークの観点で考えることや記録というものを見つめ直すことには意義がある。研修としては事例を通じて、またはグループワークを行うことで、自分の考えを他の参加者と共有することが肝心であると考えている。研修担当者として保護者対応でも子ども対応でも対人援助として支援のゴールをどれだけ具体的にイメージし、始めのステップを保護者や子どもと一緒に歩むことができるかが重要と考えている。今回の事例や記録の書き方もスキルの習得だけでなく、ケースの考え方を参加者と共有することに意味があると考えている。今後も工夫を重ねてよりよい研修にしていきたい。

⑦里親委託の推進

	会議・行事・研修	日時	場所	内容
県 ・ 児 相 ・ 市 町	里親委託等推進委員会	7月18日 12月6日	県庁昭和館	・里親制度普及啓発活動について ・里親委託後の支援について ・栃木県社会的養育推進計画策定作業の今後の進め方について 等
	里親支援部会	5月24日 7月19日 10月5日 12月6日 3月2日 3月8日	中央児相 中央児相 きずな 県庁昭和館 日本財団 中央児相	・H30年度年間事業計画について ・児相職員との話し合い（事例を通して） ・里親委託に関わる事例検討 ・静岡市の里親支援機関と静岡市里親会の役割 静岡市里親会会長 眞保和彦氏 ・第7回東京フォーラム ・育児支援・今年度の反省
	第63回栃木県里親大会	10月14日	パルティ	・式典・里親里子の体験発表・分科会
	県北地区里親会レク	8月3日	なかがわ水遊園	・鮎つかみ・水族館見学
	H30年度施設養育体験	6月13日	養徳園	・里親一組 ユニットでの生活場面体験
	第1回登録前研修 第2回登録前研修	6月22日 11月9日 11月16~17 12月7日	アリストテレス 中央児相 養徳園 桔梗寮	・研修参加 ・児相での研修に参加 ・里親17名・児相2名・その他1名 園長講話・施設職員の話・児童との交流 ・研修参加
	里親制度普及啓発活動	10月4日	那須烏山市	・那須烏山市健康福祉まつりで啓発活動
	県北地区里親サロン	毎月第3火曜	県北児相	・ゲーム大会・季節行事・ランチサロン

	フォスタリング研修	8月28日 3月2日	宮城里親 支援セン ター 日本財団	・フォスタリングチェンジフ ァシリテーター養成コース オブザーバー参加 ・英国の里親支援SWに学ぶフ ォスタリング機関のこれか ら
	栃木県里親全体研修 会	2月22日	パルティ	・「新しく求められる里屋とフ ォスタリング機関につい て」長野大学上鹿渡和宏氏
	県北地区里親会研修 会	2月23日	西那須野公 民館 いちご園	・「生い立ちの整理と里親支 援」 講師：東瑞恵（TH）赤羽朋 子（里親SW） ・いちご狩り
	里親レスパイト（再 委託）	8月1～4日 8月20～22日 12・29～ 1・1	養徳園	合計：11日間
	里親応援会議	3月7日	養徳園	歳）委 託に向けて
	ふれあい里親事業 里親マッチング～委 託	長期休み 3月25日	各里親宅 宅	15名がふれあい里親利用
養 徳 園	里親交流会	10月7日	鬼怒グリ ンパーク	氏家養護園と合同。県北児相9 名参加 里親里子37名・養徳園養護園 子ども職員 合計120名の参加
	里親の日	各月第3土曜 日 5月19日 1月19日	養徳園	養育体験・家庭訪問・電話メ ール相談 絵本のおはなし・絵本で子育 て 18名 絵本で子育て第2弾 17名 小林 克子講師
	里親制度普及啓発活 動	10月20日	養徳園HP 氏家体育 館	里親交流会や委託後の支援等 について 養徳園日誌（養徳園HP）に掲 載 児童家庭支援センターとチラ シ配り等
	ファミリーホーム支 援	毎月第2火曜 第4土曜	はなの家	里親サロン支援等
	家庭訪問 里親委託後支援	10月・3月 4,5,6,10,11, 12,2 12月・1月		2回 平成28年4月 委託 7回 平成28年7 月委託

		H31年3月		2回 平成31年3月 25日 1回 H28年宇都宮 乳児院より委託 特別養子縁組 澄み
	施設訪問 里親委託後支援	3月13日	児童発達 支援セン ター	
<p>課 題</p> <p>①「2020年までにフォスタリング業務の包括的な実施体制を構築する」ために、今年度は関連する研修等を受けることはできた。各施設の温度差があり「部会が出席するだけの場」になっている相談員もいる中で、県北の施設は、県北里親会行事参加や、連携して啓発活動をするなど、十分ではないが連携したフォスタリング活動をすることができた。こうした、<u>地域ごとの支援員の連携</u>が少しずつでも実施できることが、里親支援や、委託率向上に繋がっていくのではないかと感じる。</p> <p>②養徳園としては、今年度1件の里親委託が成立。委託後の支援を見相と連携し実施していく。</p> <p>また里親委託後の支援として「里親の日」の中に、講師を招き「絵本で子育て会」を企画実施し、毎回20名弱の参加者を得る。また、家庭訪問先の開拓や、児童発達支援センター訪問等、社会資源の開拓、Sメール等による里親相談等、里親委託前、委託後支援に繋げることができた。</p> <p>③こうした<u>継続した小さな支援の積み重ね</u>を、里親SWが部会の中に持ち寄り、皆で検討し膨らませ、各施設に持ち帰り反映させることにより、総合的に里親委託率の向上に繋げたい。</p> <p>④フォスタリング機関立ち上げに向け、<u>支援員のスキルアップ</u>は各個人の課題であるが、部会の中でも検討していきたい。</p>				

(4) 社会教育への参加

① サッカー教室

小学6年1名地域のサッカー教室に参加。

毎週水曜日 18:30～20:30 喜連川グリーンフィールド

毎週木曜日 18:00～20:00 喜連川グリーンフィールド

練習試合や大会が不定期に入ってきた。6年生は公式な大会が増え、練習に身が入るが、人数が少ないため、大会時には、4・5年生と一緒に活動した。

全日本選手権や地域リーグ、各大会など多くの大会に、休むことなく積極的に参加し、チームの主となり大活躍した。

サッカー教室を通して、体が強くなることや人を思いやる心はもちろん、勝負に対する思いや目的を果たすために必要なことなど自分で考えて行動することを徐々にできるようになった。また、交友関係も深まった。

② 合唱

喜連川少年少女合唱団へ入団。高2女兒1名、小学5年女兒1名が、毎週土曜日の午前10時～11時45分 喜連川公民館にて合唱の練習に参加。平成30年6月2日道の駅喜連川で演奏、6月3日雨情祭、9月17日フィオーレ喜連川地区の敬老会出演、10月7日ゆめさくら博演奏会、

11月3日道の駅コンサート、11月25日栃木県少年少女合唱連盟の合同演奏会へ参加した。

合唱団外の活動は、7月21日陶芸教室、12月22日クリスマス会（クリスマスソング、ハンドベル、プレゼント交換）、皆で楽しく過ごした。

高2女児は、合唱団の中心的存在として、年下の子の面倒を見たり、先生からの期待も大きく、自信につながっており積極的に参加している。小学5年女児は3年目となり楽しく過ごしている。

(5) 育成会活動

養徳園では、地域交流の一つとして、さくら市子ども会連合会に、養徳園子ども会として小学生以上から高校生、ケアワーカーを主に育成者として入会し、子ども会へ参加してきた。

また、各地域小規模児童養護施設（オアシス・野辺山の家）も各地域の子ども会に入会し、行事等に参加している。

活動内容

年間行事として、5月にGWお楽しみ会、夏休みのラジオ体操、1泊旅行、1万人プール、子ども登山等を行った。

また、8月にわくわく体験キャンプに参加した。

成果・課題

登山は好評で、計5回行った。（1回雨天中止）

わくわくキャンプ等、子ども会連合会の活動に参加できたが、年々人数が少なくなっている。

子どもたちの安全面から、登下校の交通指導はこれからも継続していきたい。

(6) 防災訓練等

活動内容

・年間防災訓練計画の作成、それに基づき各月に避難訓練及び消防訓練を行う。また、緊急連絡網の作成、緊急時対応マニュアルの配布、各ユニットに避難経路等の確認を行う。さらに12月には喜連川消防署による総合消防訓練として、通報訓練・避難訓練・煙体験・職員緊急連絡網・連絡実施などを行った。非常時用バッグ、非常時の備品、賞味期限など定期的に確認している。

成果・課題

・避難訓練は各月に実施。その訓練時には講話を行い、防災意識を高めるために、火の特徴・煙の怖さ・火事の原因などのイラストを見せ説明を行った。

・12月の総合消防訓練は、消防署員に協力いただき煙体験を行い、万々に備えての貴重な経験になった。

・非常食の賞味期限を確認して、処分・不足分補充を行った。

・非常時防災バッグの中身のチェック、補充を行った。

4 委員会活動

別紙参照

5 行事

種別	日時	行事名	場所（行先）	参加者数		
				児童	職員	その他
園内行事	4/5	交通指導	園⇄小学校・中学校	7	5	
	4/7	花見パーティー	園庭	37	10	2
	4/29	GWお楽しみ会（たんぼぼ）	東京観光	3	1	
	4/30	GWお楽しみ会（すずらん）	とちのきファミリーランド	6	4	

4/30	GW楽しみ会（福田ホーム）	TOHOシネマズ	5	2	
5/4	GW楽しみ会（たんぼぼ）	とちのきファミリーランド	4	3	
〃	GW楽しみ会（あすなろ）	tohoシネマズ	5	4	
5/6	GW楽しみ会（野辺山の家）	那須ハイランドパーク	5	2	
5/7	GW楽しみ会（なのはな）	tohoシネマズ、ラウトラン	6	3	
5/12	GW楽しみ会（野沢ホーム）	ツインリンク茂木	6	4	
6/15	幼児遠足	なかがわ水遊園、ぼっぼ農園	3	4	
7/7	七夕	園庭	28	10	4
7/22	奉仕作業	園庭周辺	全員	全員	
7/23	公文集中勉強会	園研修室	20	6	
7/25	一万人プール（たんぼぼ）	一万人プール	5	3	
7/26	一万人プール（なのはな）	一万人プール	6	3	
7/27	映画とランチ（あすなろ）	ベルモール	7	4	
7/31	一万人プール（すずらん）	一万人プール	6	4	
8/2~3	オアシス一泊旅行	角田浜～長岡～佐渡（新潟県）	6	2	
8/6	尾瀬ハイキング（すずらん）	尾瀬沼	5	4	
8/6	高校生東京1泊2日の旅	東京	2	1	
8/7	一万人プール（野沢ホーム）	一万人プール	6	4	
8/10	一万人プール（福田ホーム）	一万人プール	6	3	1
8/22	一泊バス旅行	東京方面	36	25	
9/1	野辺山の家夏旅行	東京方面	5	2	
9/23	なのはな秋の魚釣り	那須町伊藤苑	6	3	
10/7	里親交流会	鬼怒グリーンパーク宝積寺	24	14	80
10/12	七五三前撮り	スタジオアリス	3	4	
11/11	七五三	御嶽山神社・食堂	40	20	
11/26	創立記念日	生活指導室、食堂、研修室	50	49	
12/8	総合避難訓練	園庭	23	5	
12/16	奉仕作業	園内	全員	全員	
12/23	クリスマス会	各ユニット	全員	全員	
1/7	カレンダー製作	食堂	36	10	
2/11	感謝の日	本園	47	36	58
2/23	高齢児合宿スキー教室	たかつえスキー場	17	12	2
3/3	ひな祭り	ホール・食堂	37	17	
3/9	なのはなスキー	エーデルワイススキーリゾート	5	3	
3/10	たんぼぼお別れ外食	宇都宮方面	7	4	
3/17	あすなろ外食	すたみな太郎宇都宮東店	7	4	
3/17	すずらんお楽しみ会	フォーラム那須塩原、ボヌール	4	5	

	3/17	野沢お出かけ	ココス、王冠ボウル	6	5	
	3/23	児童送別会	指導室、食堂	全員	全員	
	3/23	OB・OG会	ニューいたや	3	22	10
	3/27	福田ホーム外出	ベルモール	6	4	
地域交流	7/28	天王祭こどもみこし	町内	10	2	
	10/20	さくら市ふくしまつり	氏家体育館	30	5	
施設交流	6/16	養徳園vs下野三楽園対抗 スポーツ大会	日光体育館	16	5	
	2/3	児童福祉施設文化祭	高根沢文化会館	全員	全員	
招待事業	4/22	宇都宮動物園招待	宇都宮動物園	19	10	
	6/10	じゃが芋掘り招待	那須烏山市森田	17	6	
	6/20	イチゴ狩り招待	さくら市金枝大野様	30	10	
	7/7	ふたりの王子観劇招待	教育会館	16	6	
	8/5	高根沢更生保護女性会ミ ニ集会	森山産業「花水木公園」	20	10	
	8/19	C那須は～もに～すいか 割り招待	大田原ふれあいの丘	25	9	1
	8/25	四つ葉まつり招待	栃木市	12	4	
	9/1	プロレス観戦招待	宇都宮オリオンスクエア	16	7	2
	9/2	ローターアクト花火大会	園庭	35	15	
	9/23	コンタくん家まつり	コンタくん家	30	6	
	11/3	短足おじさんフットサル大会	栃木SC宇都宮フィールド	15	9	
	12/14	西那須野教会クリスマス会	西那須野教会	9	2	
	12月	「光る絵本展 in さくら市喜連 川」招待	笹屋別邸	30	16	
	12/15	宇都宮乳児院クリスマス会招待	宇都宮乳児院	7	4	
	2/9	栃木ブレックス観戦招待	ブレックスアリーナ	23	9	
	2/16	スキー体験交流会	エーデルワイススキーリゾート	23	15	6

6 施設の社会化

(1)生活指導室の地域開放

市居合道部が毎週月・水・金、練習のために利用している。

(2)ボランティアの受け入れ

恒常的に更生保護女性会夕食づくり（延べ80名）、光と風の家読み聞かせと言葉おもしろ教室（延べ90名）、遊び補助者等（ボランティア企画行事及び招待を除く）を受け入れていた。

園内で実施されたボランティア企画行事は次の通り

4/28 西那須野ロータリークラブ 15名 BBQ・射的等

6/23	異業種交流四つ葉会	17名	ドッジボール・BBQ・ビンゴ大会
9/2	宇都宮ロータリークラブ	15名	かき氷・ゲーム
11/8	市更生保護女性会	30名	本館窓ふき・球根植付・除草
12/16	H・O・G栃木チャプター	40名	サンタがハーレーに乗ってやってきた
12/16	林香君さん	1名	陶芸教室
12/25	サンタの会	25名	クリスマス会

(3) 社会人先生

宇都宮の美容師荒川憲司（通称ん太郎）さんが代表の短足おじさんの会が行う「社会人先生」が、下記のように実施され、延べ約50人の児童が参加した。

4/1（日）古賀哲郎氏 「料理教室・ゼリーを作ってみよう」

12/16（日）林香君氏 「陶芸教室」

(4) 感謝の日

支援者及び地域の方々との交流の場として今年も感謝の日を設けた。

つるしびなの展示の時期に開催し、より養徳園をしってもらおうと、2月11日に行った。

各ユニット事に、ゲーム、模擬店を行った。各ユニットとも、子どもと職員が協力し合い、とても良い会になったと思う。招待者の方々も、とても喜ばれ、満足して帰られたようだった。

模擬店のメニューがボリュームのあるものばかりで、次回は、メニューと量を検討したほうが良いという反省が出た。

各ユニット内容

すずらん	豚汁
たんぽぽ	ホットケーキ、コーヒー、紅茶
福田ホーム	和菓子、お茶
オアシス	パフェ
のざわ・野辺山	カレーライス、ポテトフライ
あすなろ	ゲーム（パターゴルフ、魚釣り）
なのはな	ゲーム（割箸射的）

参加人数

招待者	58名	
子ども	48名	
職員	40名	計146名

7 施設見学・研修、実習生の受け入れ

(1) 施設見学・研修

5/22	那須烏山市民生児童委員協議会	16名
5/26	作新学院短大	36名
6/8	上三川町民生児童委員	12名
7/9	栃木市主任児童委員	36名
7/9	越谷市民生児童委員	21名
7/24	北金丸分校	12名
10/12	片岡地区民生児童委員	15名
10/15	太田氏少年指導委員	12名
11/8	さくら市更生保護女性会	20名
11/16	里親研修	16名
11/22	筑西市民生児童委員	35名

11/26	青葉学園（福島県）	10名
11/27	塩谷南那須地区社会教育指導員	10名
12/10	宇都宮大学内留生	7名
2/20	日照養徳園・誉田養徳園	15名
その他		4名

計 289名

(2) 施設実習

・保育士

宇都宮共和大	2名	TBC	6名
作新大学短期大学部	5名	佐野短期大学	2名
白鷗大学	2名	宇都宮ビジ電	2名
足利短大	2名	淑徳短期大学	2名
東京未来大学	2名	埼玉純真短期大学	2名
東京家政大学	3名	聖徳大学	2名
聖徳短期大学	2名	大宮子ども専門学校	6名

・社会福祉士その他

国際医療福祉大学	7名	東京福祉大	1名
----------	----	-------	----

計 48名

8 職員研修

(1) 法人内研修

- ・社会福祉施設の運営（新任、4/25）
大谷園長、豊岡事務長
- ・先輩職員から伝えたいこと（新任）
斎藤統括主任、酒井主任保育士（5/9 午前）
加藤副施設長、森統括主任（5/9 午後）
- ・調理員から伝えたいこと（新任）
君嶋主任調理員、臼井主任調理員（7/11）
- ・『権利擁護と家庭的養護』（全職員）
福田総合施設長（9/5）

※『中堅・若手が語る児童養護（座談会）』については、講師職員の都合がつかず 30 年度は中止

(2) 園内研修

- ・事業計画における重点目標について園内研修を実施した
3、養護の状況（3）援助の実際 参照

〈施設処遇援助事業〉

平成 31 年 2 月 7 日『絵本の読み聞かせに関する講話』

講師 松居 友（ミンダナオ子ども図書館 エグゼクティブディレクター）

(3) 施設外研修

日時	研修名	場所	参加者
6/4~5	施設長及び事務職員研修会	那須スポーツパーク	園長/加藤準/豊田/森/小川

7/5~6	第54回関東児童養護施設研究協議会	栃木県・鬼怒川あさのやホテル	園長/加藤準/豊田/森/小川	
7/7~9	SBI 児童養護施設職員研修会	東京都・ホテルシーサイド江戸川	田島	
8/17	様々なニーズをもつ子ども達への理解と支援～心理的ストレスへの対応～	県庁北別館	桑原/栗林/福田す/吉成/大谷/福田と	
8/28	フォスタリングチェンジファシリテーター養成コース	仙台市	赤羽	
9/7	SBIブロック別児童養護施設職員リーダー研修	仙台市ホテルメトロポリタン仙台	内山	
9/25	CW部会新任研修	那須スポーツパーク	細島/大谷	
10/4~5	関東ブロック児童養護施設職員研修	熱海後楽園ホテル	園長/片桐/矢部	
10/17~19	第72回全国児童養護施設長研修協議会	札幌市札幌プリンスホテル国際館パミール	園長	
11/5~11/6	第25回全国自立援助ホーム協議会 愛知・名古屋大会	愛知県名古屋市キャスルプラザ	園長	
1/16~18	全国児童養護施設中堅職員研修会	東京都 灘尾ホール	小口	
1/21~22	ファミリーソーシャルワーク研修会	東京都	森	
1/27	日本ソーシャルペダゴジー学会第2学術集会	兵庫県甲南大学	園長	
2/4~5	第1回 関東ブロック事務・管理運営者研修会	箱根湯本第一ホテル	園長/豊岡	
3/2	第7回東京・九州フォーラム「英国の里親支援ソーシャルワークに学ぶフォスタリング基幹のこれから」	東京都 日本財団2F	園長	
3/2	自閉症スペクトラムの特徴と個々のニーズに応えた療育実践」	東京都 高田馬場	小口	
児童家庭支援センター	4/24	関東地区児童家庭支援センター協議会総会	国立オリンピックセンター	片桐
	6/19	第4回児童相談業務担当職員研修(新任職員研修)第1回児童福祉司人用講習会及び任用前講習会	中央児童相談所	細島/大谷
	6/28	第2回児童福祉司人用講習会及び任用前講習会	中央児童相談所	細島/大谷
	6/29	家族支援基礎研修①	中央児童相談所	福田す
	7/5	にこにこ広場 心理療法担当者への研修	児家センにこにこ広場	細島
	7/13	第5回児童相談業務担当職員研修(新任職員研修)第3回児童福祉司人用講習会及び任用前講習会	中央児童相談所	細島/大谷
	7/27	第4回児童福祉司人用講習会及び任用前講習会成	中央児童相談所	大谷
	8/6	第5回児童福祉司人用講習会及び任用前講習会	中央児童相談所	大谷
	8/17	施設合同処遇援助事業	県庁北別館 4F	大谷/吉成
	8/18	第3回全国フォーラム(マイツリーペアレンツ・プログラム)	大阪府高槻市	片桐
	10/3	関東地区児童家庭支援センター協議会 基礎研修会	国立オリンピックセンター	福田
	10/4~5	第33回関東ブロック児童養護施設職員研修会「養育の本質からみた施設が取り込むべき課題とその対応」	熱海後楽園ホテル	片桐
	10/16	市町村児童相談業務担当職員研修会兼家族支援基礎研修	中央児童相談所	片桐/福田
10/25~26	全国児童家庭支援センター 研修協議会	ホテルセンチュリー静岡	片桐	
2/18	平成30年度関東地区児童家庭支援センター協議会	国立オリンピックセンター	片桐/箱崎/吉成	

栃養協研修事業及び部会研修

日時	研修内容	場所	参加者
----	------	----	-----

新 任	4/27	・社会人としてのマナーとチームに貢献する仕事の進め方 講師：(株)ワークエントリー栃木営業所 所長 野崎 千晶 氏	福祉プラザ	細島/パヤム/大谷
	6/25	・児童養護の歴史と現状 講師：福田 雅章 氏 ・子どもの心理Ⅰ・Ⅱ(乳幼児期・児童期) 講師：日高 茂暢 氏	福祉プラザ	細島/パヤム/大谷
	9/11	・子どもの心理Ⅲ・Ⅳ(思春期・青年期) 講師：日高 茂暢 氏 ・児童家庭支援センター『ちゅうりっぷ』とその役割について 講師：片桐 洋史 氏 ・児童養護施設等退所児童就労事業について 講師：伏木須巳江 氏	とちぎ青少年センター	細島/大谷
	9/25~9/26	ケア部会主催一泊新任職員研修及び施設見学 ・児童養護施設の最低基準・運営方針 講師：藤本 早 氏 ・先輩方からのアドバイス	那須スポーツパーク	細川/大谷
	11/19	・不登校への取り組み 講師：牧 裕夫 氏 ・ファミリーホーム『虹の家』の現状と課題について 講師：畠山 憲夫 氏 ・児童心理治療施設『那須の家』 講師：奥山 隆 氏	とちぎ青少年センター	細島
若 手	6/7	・ペアレントトレーニング(基礎コース) 講師：秋場美智子 氏	とちぎ青少年センター	万年/稲田/薄井
	6/8	・ペアレントトレーニング(基礎コース) 講師：秋場美智子 氏	とちぎ青少年センター	万年/稲田/薄井
	9/21	・社会的養護内容3・4 アドミッションケア・インケア 講師：福田 雅章 氏 ・臨床発達心理 1・2・3・4 (乳幼児期・学童期・思春期・青年期) 講師：秋場 博 氏	とちぎ青少年センター	万年/稲田/薄井/吉成
	11/29	・権利を守る取り組み 講師：館野 太一 氏 ・障害者福祉の仕組みと事例検討 講師：若倉 健 氏 ・メンタルヘルス問題のある親への生活と子育て支援について 講師：島田 恭子 氏	パーティとちぎ	万年/稲田/薄井
中 堅	5/16	・リーダーシップと組織のマネジメントについて 講師：野崎 千晶 氏 ・社会的養護内容 リービングケア・アフターケア 講師：福田 雅章 氏	パーティとちぎ	栗林/桑原/加藤(ま)
	9/27	・リーダーシップと組織のマネジメントについて 講師：野崎 千晶 氏 ・新任職員を支えるための指導・教育(スーパーバイズ) 講師：堀場 純矢 氏	とちぎ青少年センター	東/赤羽/矢部/人見/菅原/福田 栗林/桑原/加藤(ま)
	10/2	・社会的養護内容 リービングケア・アフターケア 講師：福田 雅章 氏 ・こども間の暴力防止について 講師：藤岡 孝志 氏	パーティとちぎ	東/赤羽/矢部/人見/菅原/福田 桑原/加藤(ま)
上 級	7/13	・今日の課題と将来像について 講師：増沢 高 氏 ・職員のメンタルヘルスとその対応について 講師：増茂 尚志 氏	パーティとちぎ	人見/菅原/福田
	8/10	・社会的養護における人材育成に係わる要件に関する研究について 講師：増沢 高 氏	パーティとちぎ	人見/菅原/福田

	8/28	・これからの施設養護について 講師：福田 雅章氏 ・スーパービジョンとチームアプローチについて 講師：中山 正雄氏	とちぎ青少年センター	人見/菅原/福田/寺澤
	9/27	・リーダーシップと組織のマネジメントについて (チームケアを理解する) 講師：野崎 千晶 氏 ・新任職員を支えるための指導・教育(スーパーバイズ) 講師：堀場 純矢 氏	とちぎ青少年センター	人見/菅原/福田
	1/24	・児童福祉を取り巻く現状について 講師：薄井 益美 氏 ・施設の管理運営(マネジメント)について 講師：福田 雅章 氏	パルティとちぎ	人見/菅原/福田
基 幹 的	7/13	・施設における日常的なケアについて ・家族支援とソーシャルワークについて 講師：福田 雅章 氏 ・職員のメンタルヘルスとその対応について 講師：増茂 尚志 様	パルティとちぎ	寺澤
	8/10	・社会的養護における人材育成・支え合いのチームとスーパーバイズ、ケースカンファレンスについて 講師：増茂 高 氏	パルティとちぎ	寺澤
	8/28	・社会的養護におけるスーパービジョン・チームアプローチについて 講師：中山 正雄 氏	とちぎ青少年センター	寺澤
	1/18	・子どもの権利擁護に関すること ・関係機関との連携に関すること 講師：箱野 太一 氏 ・施設における専門的なケア(心理治療等)に関すること ・子どもの発達上の問題に関すること 講師：岩井 幸祐 氏	パルティとちぎ	寺澤
	1/24	・児童福祉を取り巻く現状について 講師：こども政策課長 ・施設の管理・運営(マネジメント)に関すること 講師：福田 雅章 氏	パルティとちぎ	寺澤/人見/菅原/福田
	1/24	被措置児童虐待防止研修 ・社会的養護における高度な専門性を執拗とする知識や援助技術に関すること 講師：山田 勝美 氏	パルティとちぎ	大谷/吉成/箱崎
	長期	9/21~10/20	・千葉県いずみ市深堀 685 児童養護施設 小山ホームへ研修	千葉県いずみ市
施設長	5/10	・第1回施設長会議	県庁	福田/加藤(準)/豊岡/小川
	6/4~5	・第2回施設長会議	那須スポーツパーク	
	9/11	・第3回施設長・幹部職員会議	県庁	
	12/7	・第4回施設長会議	県庁	
	3/22	・第5回施設長会議	県庁	
ケアワーカー	9/25~26	新任職員研修会及び施設見学 ・児童養護施設最低基準・運営指針について 講師：藤本 早 氏 ○施設の先輩職員方とのアドバイス	那須スポーツパーク	細川/大谷
	12/11	・発達障害児や虐待児の特徴とその対応について 講師：渡邊 厚司 氏	中央児相	寺澤/桑島/平野
	3/28	・発達臨床の視座から見るアタッチメント 講師：遠藤 利彦 氏	中央児童相談所	園長/加藤/桑島/平野/薄井/築井/人見/稲田/赤羽/小口
F S W	9/3	・ファミリーソーシャルワーカーの役割について 講師：川島 丈夫 氏	中央児相	森
	1/21	・事例検討会	中央児相	森

	3/15	・家族支援について 講師：畠山 由美	中央児相	森
里親支援	12/6	・静岡市の支援機関と静岡市里親会の役割について 講師：眞保 和彦 氏	県庁北別館	赤羽/
	3/2	・英国の里親支援ソーシャルワークに学ぶフォスタリング機関のこれから	東京都日本財団	福田/赤羽
調理	5/22	・特定給食施設等従事者研修会	塩谷庁舎	船山
	10/15	・スポーツする子ども達の栄養と食事 ～トップアスリートの食事に学ぶ～ 講師：鈴木いづみ 氏	県庁北別館	船山
	11/13	・こどもの心身の成長と食事の役割 講師：大森 玲子 氏	県庁	船山/君嶋
	1/31	・特定給食施設従事者研修会 講師：飯島真由美 氏	塩谷庁舎	君嶋
看護師	12/4	・感染症予防について 講師：山野井由美子氏 小島 貴子 氏	宇都宮乳児院	小林/
職業指導員	7/10	東京都における「自立支援コーディネーターの活動」 「至誠学園」における自立支援プログラムについて 講師：山田 俊一 氏、角能 秀美 氏	東京都	内山
	11/20	「誰もが引きこもる次代 若者に必要な支援とは」 講師：横松 陽子 氏	青少年センター	内山
心理	9/6	・動機づけ面接について 講師：須藤 昌寛 氏	那須学園	東
	12/10	・施設入所児の予後不良について 講師：内海 新祐 氏	中央児童相談所	加藤/森
	3/28	・発達臨床の視座から見るアタッチメント 講師：遠藤 利彦 氏	中央児童相談所	再掲

平成30年度地域小規模児童養護施設事業報告

『オアシスの家』

平成19年11月1日(土)開所

子どものメンバー

平成30年4月1日～10月31日 6名
小学5年男児 1名
中学2年男児 1名
高校2年男児・女児 各1名
高校3年男児・女児 各1名

職員 3名

人見(♀保育士)
平野(♂保育士)
佐藤(♀非常勤)

平成30年10月31日高校2年男児高校退学により退園し、11月1日より小学校6年男児が入所する。

平成29年11月1日より、平成28年4月に退所し大学に通っていた子が退学し戻ってきてアルバイトをし、オアシスの家で生活していたが、平成31年1月11日より、アパートにて一人暮らしを開始し自立。

通学状況

喜連川小学校
喜連川中学校
宇都宮工業高等学校
宇都宮海星女子学院高等学校
矢板中央高等学校
文星女子高等学校

行事報告

平成30年4.30 那須 アスレチック NOZARU
8.2～3 新潟県角田浜海水浴・長岡花火
佐渡島
平成31年2.9 マウントジーンズにてボード

定期通院状況

高校2年女児
月1回 自治医大 こころの診療科 阿部先生受診
(落ち着いて生活できているときには、職員のみが行き薬を処方してもらった)
服薬 朝食後 コンサータ 36mg
朝・昼・夕食後 リスパダール 0.5mg

小学5年男児

2か月に1回 とちぎリハビリセンター 小児科 清水先生受診
服薬 夕食後に、エビリファイ 3mg
10月17日より朝食後リスパダール 0.5mg、25日より 1mgに変更

生活状況

子どものメンバー、職員変わらずのためそれぞれの子が落ち着いての生活スタートとなった。
小5男児、学校で自分の思い通りにならないと、暴れてしまうことがあり、迎え要請、電話連絡があった。オアシスでも、大暴れしてしまうことが時折あった。

中 2 男児、休日は部活、友人と遊び、充実した日々を過ごしていた。

高 2 男児、夏休み前より高校生活上手くいかず学校休みがちになり、10 月 31 日高校退学し家庭復帰。家庭でも上手くいかず住み込みの仕事をする。

高 2 女児、学校生活不安定な日が多く、気分の浮き沈みが激しい 1 年となった。

11 月にメンバーの退園、新メンバーの入所があり、子どもたちの間で多少の揺れはあったが、すぐに落ち着きが見られた。

高 3 男児、マイペースで生活し落ち着いていた。

高 3 女児、アルバイトを転々とし長続きせず、お金を貯めなければならないことは分かっているが、行動伴わず。

高校 3 年生が 2 人いたため、「(H31) 4 月から誰が入るんだろう」という不安感が 2 月頃より見られた。しかし、卒園後について、それぞれの子が考え、みんなで話すよい機会となった。

小 6 男児、11 月よりオアシスに入所。学校生活など初めてのことが多く、戸惑いも見られたがそれなりに生活をし、無事に小学校卒業。

部活があったり、学校行事があったりで全員で出かけることが難しくなっている。

今後の課題

卒園に伴い子どものメンバーが変わるため、個々が落ち着いて生活できる環境を配慮し、安心感が持てるようにしたい。

『野辺山の家』

平成 22 年 4 月 1 日 (木) 開所

H30. 4. 1~H31. 3. 31 まで 5 名

・子どものメンバー	・職員 3 名
中学 1 年 男児 1 名	菅原 (女) 保育士
中学 2 年 男児 1 名	田島 (男) 指導員
中学 3 年 女児 1 名	小林 (女) 非常勤
中学 3 年 女児 1 名	
高校 3 年 女児 1 名	

○通学状況

- ・喜連川中学校 (自転車)
- ・文星女子高等学校 (自転車・バス・電車)

○行事報告

H30. 5/6 GW お楽しみ会 (那須ハイランドパーク)

H31. 2/24 高齢児スキー

H31.3/21 外食

・受験生が一番忙しかったため全員のスケジュールを合わせる事が難しく個別の時間を多くもつた。

・季節の行事は子どもたちと一緒に室内を装飾し行事に合わせたメニューを調理し由来を伝えながらお祝いをした。クリスマスは子どもたちのアイデアで協力しパーティーを行うことができた。

・誕生会はみんなで誕生者のお祝いし、誕生外食で担当 CW と 1 対 1 の時間を大切にした。

○定期通院状況

- ・中学 2 年男児 黒須病院小児科

コレバインミニ 83% (コレステロールを下げる) 1.81g 夕食前服用。

コレステロール数値が高いため通院。体質か遺伝かどちらともか長期的な観察が必要。食事制限しながら定期的 (半年) に検査。要観察。

○心理士によるセラピー（本園：毎週1回実施）

・中学3年 女兒 1名

*大人も、さまざまな角度からアドバイスをもらい子どもたちとの関わりを見直しながら実践し体験を通して学ぶことができた。

○生活状況

・プライベート空間や境界線など高校生女兒を巡り他児が困ることもあったが各々自分の時間を過ごすことができるようになった。

・中2男児はコレステロール値が安定せず内服し食事に気を付けた。

・中3女兒2名は学校行事や勉強に積極的に取り組んだ。一人は少年の主張大会に喜中代表で参加、もう一人は演劇祭と、二人とも堂々とした発表だった。受験勉強は不安が強いなかで辛い時期もあったが最後まで取り組み受験を終える事ができた。

・高3女兒は就職活動が落ち着いた10月くらいから不登校になるが学校の配慮により補講登校し無事卒業式を迎えた。

○今後の課題

子どもの言動や変化に気を配り一人ひとりが落ち着いて生活できる環境。共同生活において個々の思いや考え将来をイメージし話せる雰囲気作りに心がける。

平成30年度各委員会報告

給食委員会

<芋掘り>計画書通り実施

- ・今年も養徳園隣地の畑で芋掘りをした。

今年は、GW前に理事長先生に、畝作りからマルチ貼り、苗と苗の間隔などの作業ポイントについてご指導をいただいた。畑作りに携わった職員は知識や経験がほとんど無かったで、大変心強い背中の後押しとなった。GW後、理事長先生にご指導いただいたことを踏まえ、職員と子どもたちとで一緒に苗植えをした。

秋休みに芋掘り

今年の夏は猛暑だったため、不作を心配していたが、たくさん収穫することができた。子どもたちからは天ぷらのリクエストがあり、夕飯の食卓に大きさや形が様々な沢山の天ぷらが並んだ。子どもたちはユニット毎に天ぷらを交換し合い、これまで心を込めて自分たちで育てあげた作物に対する思いもお互いに交換し、収穫の喜びを共に分かち合っていたように感じた。食育を通して、食べる力=生きる力を育む素晴らしさを実感することができました。

<そば作り>

- ・12月末にそば打ち体験を計画していたが、先方の都合で中止。

<畑>

- ・職員が堀さらいに養徳園として参加した。地元の方との交流は必要と感じた。

<食育だより>

- ・もう少し、子ども達に関心を持てるような内容も入れた方が良かった。(活動の写真やクイズなど)
- ・子ども向けの便りに絞ると良かった。

課題

- ・子ども向けの食育便りにする。
- ・恒例になったお芋作りだが、子どもたちも手馴れてきているので、今後も続けていきたい。
- ・来年度より、PCのshareにて、各ユニットの朝食献立が見られるようにする。

環境美化委員会

〈環境美化の目的〉

日々の生活の中で、子ども達が「自分は大切にされている」という肯定感を育まれるような、調和のとれた心地よい住環境を作る。

〈年間活動〉

年2回の奉仕作業の計画、実施担当割り当てにし、各担当が随時活動を呼びかけた。

〈各担当報告〉

修繕(豊岡)	定期点検(網戸・レール・戸・非常灯・壁)を促し、随時各ユニットからの修繕箇所を申告、申し込みの提出をしてもらい、職員が修繕。または、業者に依頼
花壇・園庭(滝澤)	今年度は、たくさんの球根を更生保護女性会の方が植えて下さったので、助かった。 植木の剪定が1度やったのみだった。
衛生の日(大島)	毎月ポスター作成をし、事前に告知。今年度は、全ユニットに配布した。

運動用具（栗林）	自転車の備品を購入しました。ボールの欠陥品捨てました。草刈りしました。
親子訓練室・1F男子風呂からまつの整備・管理（東）	親子訓練室及び自活訓練室については、利用後の清掃を行う。また、定期的に寝具等の整備を行った。1F風呂場の倉庫については、寄付で頂いたものを分配するなどした。各倉庫について、整理整頓するまでには至らず、また、何がどこにあるか等を、他の職員に周知するまでには、至らなかった。
布団部屋の整備（手塚）	布団部屋の整理。園庭の草むしり。空いた時間に、もっと草むしりをすれば良かった。布団部屋の整理をしたら動かして良い物や処分して良い物の区別がわからず、もっと他の職員に呼びかければ良かった。
階段下（寺澤）	階段下倉庫清掃。体育着などの整理。ゴミ袋10袋以上捨てた。
面接前（栗林）	整理整頓をした。
カンファレンス室（東）	実習生に時間がある時に整理整頓してもらい、以前よりは、綺麗なままを保っている。
草刈り（栗林）	昨年より草刈りが不十分だった。
生活指導室（寺澤）	物を置かないようにして、現状維持を保った。
1F廊下、下足室（福田す）	みんながいない時にワックスをかけた。
野辺山の修繕（小林）	お風呂の排水がつまり、業者の方に見てもらおうが、排水管が良く分からないと言われ、とりあえず、パイプ洗浄剤を使って、こまめにやって下さいとの事。まもなく速やかに流れた。数か月が経ち、またお風呂の排水が悪くなり（違う場所でのこと）業者の方に見てもらおうと、排水口の所に薄い鉄板が、張り付いていたため、流れが止まってしまったことが、わかる。ダイニングにある流し台、ホーローシステムキッチンの戸の留め金が外れ、きちんと戸が閉まらずにいたが、メーカーの方に修理をして頂ききれいに閉まるようになった。修理して貰いたい場所（リビング入り口の戸、玄関の鍵、畳の傷み、交換）出来たこと（カーテン洗い、お風呂の天井のカビや入り口の汚れ等、その度、掃除出来ました。庭の雑草も田島さんが、草刈り機で刈ってくれて、きれいさを保つことが出来た。
なのはなの修繕（滝澤）	ドアや壁の修繕。
	7月の奉仕作業で、庭の砂利の部分に除草剤を撒いたことで、その後もあまり草が生えなくて良かった。シューズボックス内の清掃も行い、不要のくつを処分し、整理されすっきりした。 12月の奉仕作業は、月初めより1F2F、それぞれ清掃した所を書き止めていき、比較的、計画的に全体の作業を終了することが、出来た。 年間を通して、カビ防止のために通気性を良くする事に注意を払った為に、昨年のようにカビ発生が少なかった。3月に修理箇所を確認し業者に依頼したが、3月までに直すことが出来なかった。年間を通して、プランタンに花を植える事が出来た。
たんぼぼの修繕（寺澤）	壁の修繕。床のワックスかけ、ワックス剥がし。 浴室のシャワーヘッド交換、トイレの便座交換を業者に依頼。
すずらんの修繕（栗林）	ドアの修繕を業者に依頼。ワックスかけ。畳の張替えを業者に依頼。
あすなろの修繕（手塚）	ワックスかけ。床の清掃。
野沢ホームの修繕	ふすまのすりガラスの修理。風呂場の水道蛇口の修理。屋根裏のネズミ退

(大島)	治。屋外のムカデ退治薬撒き
ちゅうりっぷの修繕 (福田す)	網戸の張替え。

H30 年度事業実施

4月	衛生の日・今年度の事業計画
5月	衛生の日
6月	衛生の日
7月	衛生の日・奉仕作業・ワックスかけ
8月	衛生の日
9月	衛生の日
10月	衛生の日
11月	衛生の日
12月	衛生の日・奉仕作業・ワックスかけ
1月	衛生の日
2月	衛生の日
3月	衛生の日・今年度の反省・ワックスかけ

〈要望と課題〉

- ・話し合いをする時に委員の人は、来て欲しい。自分が環境美化だという自覚が欲しい。
- ・外での草むしり活動がやったり、やれなかったりしたので、皆忘れないで、やれる方法はないのか。

安全管理委員会

1. 防災

避難訓練

- ・各月の担当について、ユニット・個人名でお願いした方が良い。
- ・実習的な訓練をあまり行えなかったが、図などを用意して説明を加えて子どもたちの興味を引くようにした。
- ・子どもたちの誘導について、各ユニット職員が説明しておくとうい。(集合時間・集合場所)
- ・高齢児が積極的に参加できるようにする必要あり。
- ・訓練後もユニットで話し合いを持って意識を高めることが大切。
- ・訓練の年間の予定を掲示すると、子ども達に伝わりやすい。

非常備品

- ・各ユニットの非常備品について、チェックリストがあるとよい。また皆で集まっての点検の場面があるとよい。
- ・非常備品について、今年で切れるものがあるので見落とさないようにする。
19年11月 缶入りパン 24×4箱
即席うどん 50×2箱
- ・防災用具の点検必要 発動機の点検 (しばらく動かしていないため)
- ・倉庫の点検 清掃をしながら、確認・点検を行いたい。

2. リスクマネジメント (事故防止対策の推進)

- ・ヒヤリハットファイルの活用ができなかった。ヒヤリハットは、どんなことがあるのか示すといい。また皆の目の届くところに置くとよい。
- ・AED研修は毎年行うべき。
- ・事故防止策の対応マニュアルを、みんなの目に留まる所に置いておく

3. 自転車

- ・管理ファイルの作成がなされなかった。
- ・点検・修理が不十分。(まめにチェックできるとよい)
- ・園庭の自転車の把握について、3月に実施して古いもの、乗れないものを処分した。

4. 公用車

- ・給油をしたらノートに給油サインを書くと良い。
- ・各車の点検を1ヶ月毎に行ったため安全点検がスムーズに出来た。
- ・使用した人のマナー向上の喚起。特に乗車後のゴミのチェック。

5. 遊具

- ・定期的のできていた。
- ・情報の共有不足あり。
- ・サッカーゴール：塗装が剥がれている。網が取れかかっている。
- ・バスケットボールのゴールリングと板が曲がっている。
- ・園庭とのごわホームを分けるフェンスの支えポールが機能していない。

6. 不審者対策

- ・児童も参加して、実施できてよかった。
- ・警察に立ち会ってもらい、アドバイス・指摘等いただいてもよかった。

*定期的に委員会を行い情報交換をして、園全体の安全・安心について意識を持って役割を果たしていくことが大切。

広報委員会

1 主な活動内容

項目	内容	担当者
広報誌発行	5月、9月、1月の年3回の発行。養護園、養徳園、地域小規模で記事を分担する。作成後、各種関係機関へ発送する。	委員会メンバー全員 (養護園 橋本)
ホームページ 養徳園日記の更新	行事等の記事作成を行事担当者に依頼。 養徳園日記更新	
写真管理	写真フォルダー管理。	
スケジュールの記入、 掲示物張り出し	月のスケジュールを職員室ホワイトボードに記入。掲示の張り出し。	加藤

2 反省、今後の課題

広報誌オアシス

- ・年度始めに、年間計画を組み、ページ分担、内容を決めたので、委員会で集まることなく、効率的に作業ができた
- ・今年度から、カラー印刷になり見やすくなった。がインク代などコストがかかった。更に、慣れない為、印刷ミスが多かった
- ・冬号から「ドロップボックス」を利用したので、校正～印刷での運びが、段取りがよかった
- ・委員会以外の方の協力がたくさん得られるようになったので、折りこみ等の作業が早く終わるようになった
- ・外だしGH等、印刷作業がほとんどできなかった。

ホームページ、養徳園日記

- ・養徳園日記の更新が滞ってしまった

スケジュールの記入、掲示物張り出し

- ・特定の職員が気にかけてすることでスケジュール記入はきちんとしていた。カレンダーの張替え、廊下の掲示物の修繕等は、広報委員でない職員も率先してくれた。
- ・玄関の寄付者の掲示物を、年度を通して、月別アイウエオ順にした

その他

- ・行事の写真の集まりが悪かった。改善項目である。

運営改善委員会

1 主な活動内容

項 目	内 容
スーパービジョンの方法の検討	ふりかえりシートの活用についての検討を行う。
援助マニュアルの検討	既存の援助マニュアルの見直しを行い内容の検討を行う。
自己評価～改善計画の策定及び実施	各ユニットでの自己評価を踏まえ改善点の把握及び改善計画についての検討を行う。
グループワーク企画	委員会での勉強会を開き、まずは「グループワークとは何か」を学び、具体的な実施法について検討する。新たな行事を企画するのではなく、既存の行事にグループワークの要素を取り入れながら、ひいては生活場面でもグループワークを有効に取り入れていけることを目指したい。

2 反省、今後の課題

- ・ふりかえりシートの活用に関して、個人記入のシートのほかにユニット全体で問題共有を行うシートを作成したが、活用についてはユニット間格差が出来てしまっている。
- ・個人シートについては経験年数や各々の立場によって、多様な気づきや疑問等があげられるようになり、副施設長・統括主任がそれに対するコメントをしてきたが、活用の度合いについては全体に浸透しているとまではいかない現状である。活用法については引き続き議論していきたい。
- ・援助マニュアルの検討については、運営委員会のみならず統括主任、ユニットリーダーに協力を得て見直しを行い、従来よりも細かな点を付け加えた上でH31年度版を作製した。
- ・グループワークについては「七夕」「感謝の日」の二つの行事についてユニット毎に子どもたちの話合い、それぞれが役割をもって行事に取り組んだ。

平成30年度事業報告（児童家庭支援センターちゅうりっぷ）

〔事業報告〕

平成30年度、各相談、一時預かりのうち、昨年度同時期と比べ電話相談件数と訪問相談件数が増加し、来所相談件数、ショートステイ、トワイライトステイ件数が(昨年同時期に比べ)減少している。ただし全相談件数としては昨年度同時期と比べ増加している。

	H28年度	H29年度	H30年度
ショートステイ	78件延べ194日	163件399日	159件306日（実数47人）
トワイライトステイ	35件延べ35日	64件64日	57件57日（実数12人）
緊急一時保護委託	13件延べ122日	4件83日	9件192日（実数9人）
子育て短期支援事業契約市町	ショート9市町 トワイライト1市	ショート10市町 トワイライト2市1町	ショート11市町 （新規・益子町） トワイライト2市1町
要対協への参加	さくら市、矢板市、 大田原市、那珂川町、 那須塩原市、高根沢町	6市町（同左）	7市町（新規・塩谷町）
電話相談	80ケース567件	139ケース955件	163ケース1261件
来所相談	267件	446件	370件
訪問相談	319件	649件	646件
全相談件数	1153件	2053件	2279件

- ① 児相、市町における児童家庭支援センター業務の認識が進んだ。困難事例へのソーシャルワークを児相、市町からの要請で進めることができた。また要対協（7市町に参加）に参加し関係機関の情報共有を進めた。

※平成30年度163ケース

- ・要対協ケース 81ケース(49.7%)
- ・虐待ケース 66ケース(40.5%)

- ② 愛着障害、発達障害、知的障害（B2～A1）を持つ児童を子育て短期支援事業にて受け入れた。また精神疾患（精神が不安定傾向）の保護者に対して市町職員と家庭訪問し、公的機関が非番の土日祝日に電話相談、家庭訪問等を行った。

※（別紙）平成30年度子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）利用者の内訳 参照

※子育て短期支援事業、緊急一時保護委託の実稼働日数

H29年度264日（72.3%）→H30年度260日（71.2%）

- ③ 平成29年4月よりさくら市立南小学校学童センターを当法人が指定管理委託され、同年11月より同学童センターにおいて子ども食堂（南っ子食堂）が開設された。学童保育事業が子ども食堂を併設することで、要対協で拾いきれない潜在的な虐待リスクや子育てニーズを掘り起こすきっかけになると考えられる。

例：学童保育と放課後等デイサービスを併用する保護者、学童保育スタッフへの支援

[課題]

- 一時預かり件数が増加し、ショートステイ等で預かる子どもが重度から軽度の知的障害を持つため配慮が必要になる。ケアワークに携わる人員の不足（一時預かりは土日祝日にニーズ高い。24時間体制）。専門性が必要。
- 子育て短期支援事業の契約市町が増え、子どもを預けたいニーズが高まる一方で、一時預かりができない（お断りする）ことが増えている。
→障害分野での短期入所体制支援が必要か。
- 相談件数が増加し、全ケースの進行管理体制が十分にできていない。
- 心理職員の定着。

[来年度以降に向けて]

- ① 関係機関と連携を図りながら困難事例へのソーシャルワークを充実させる。具体的にサインズ・オブ・セーフティなどの解決志向型アプローチを取り入れ、緊急対応、リスク対応、支援の見立て、支援のゴールを明確化していく。
- ② 子育て短期支援事業に関して、障害の有無を問わず児童と保護者における心の安定を支援の中心とする。児童発達支援や子どもの養育力、精神疾患のある保護者への対応など、職場内研修や他機関研修により職員の資質向上を目指す。
- ③ 地域における子どもや保護者の居場所として、さくら市立南小学校学童センターへの関わりを増やす。学童保育や子ども食堂（南っ子食堂）を利用する子どもや保護者の相談拠点として、居場所であるとともに地域の子育て相談や子育て市民講座などの啓発活動を充実させていく。

以上

平成30年度子育て短期支援事業（ショートステイ）利用者の内訳

実人数	利用理由						家族構成					
	レスパイト	仕事	入院	通院	不登校	その他	核	母子	父子	3世代		
47人	27	10	7	3	0	0	23	19	0	5		
	さくら市	那須塩原市	大田原市	宇都宮市	高根沢町	矢板市	那珂川町	那須町	塩谷町	芳賀町	計	
	12	8	10	8	5	0	2	0	0	2	47 (人)	
	40	49	27	14	21	0	6	0	0	2	159 (件)	
	40	100	58	54	42	0	8	0	0	4	306 (日)	
	利用料			利用回数			療育手帳					
	生保家庭	非課税	その他	1回	2~3回	4回以上	A 1	A 2	B 1	B 2		
27	9	11	22	13	12	1	2	1	1			

平成30年度子育て短期支援事業（トワイライトステイ）利用者の内訳

実人数	利用理由			家族構成						
	仕事	レスパイト	その他	核	母子	父子	3世代			
12人	9	1	2	6	4	0	2			
	利用料			利用回数			さくら市	矢板市	芳賀町	計
	生保家庭	非課税	その他	1回	2~3回	4回以上	10人	2人	0人	12人
	0	0	12	4	3	5	51件	6件	0件	57件
						51日	6日	0日	57日	

児童家庭支援センターちゅうりっぷ調べ H31年4月1日

児童虐待緊急ダイヤル受信実績(平成30年度累計)

*【時間帯別受信件数】

(単位:件)

管轄児相	無言・いたづら・間違い等					虐待通告以外の相談					関係機関からの事務連絡					虐待通告					その他					計
	中央	県南	県北	不明	計	中央	県南	県北	不明	計	中央	県南	県北	不明	計	中央	県南	県北	不明	計	中央	県南	県北	不明	計	
17:15~18:00				24	24	5	3	2	3	13	3				3	5	3	4	1	13					53	
18:00~19:00				27	27	11	11	2	1	25	5	1	1		7	12	4	5	1	22					81	
19:00~20:00				18	18	25	9	6	2	42	7	3	2	1	13	14	9	2		25					98	
20:00~21:00				22	22	19	9	6	3	37	7	1			8	14	3			17					84	
21:00~22:00				13	13	9	6	2	4	21	9			1	10	11	10	4	1	26					70	
22:00~23:00				21	21	10	6		2	18	10	2	1		13	10	7			17					69	
23:00~24:00	1			19	20	6	5	2	2	15	3	4	1		8	6	3	2		11					54	
0:00~1:00				1	1	5	3	1	1	10	2	1			3	5		1		6					20	
1:00~2:00				4	4	2	2	3		7	3	1			4			1		1					16	
2:00~3:00						4	2	2	1	9	3	1			4	1				1					14	
3:00~4:00				5	5	5	2			7	2	2			4			1		1					17	
4:00~5:00						2	2	1		5	2	1			3			2		2					10	
5:00~6:00				1	1	2		2		4	1				1	1	1			2					8	
6:00~7:00				8	8	4	1	1	1	7	1	1			2	3	1			4					21	
7:00~8:30				32	32	12	7	4		23	1		1		2	7	2	1		10					67	
8:30~9:00				4	4	4		1		5		1			1	1				1					11	
9:00~10:00				7	7	6	9	1		16	5	2	3		10	2	3	1		6					39	
10:00~11:00				9	9	5		1		6		1	2		3	3	4	3		10					28	
11:00~12:00	1			11	12	9	8	1	1	19	3	2	1		6	3	4	1		8					45	
12:00~13:00				10	10	2	3	6	1	12	5		2		7			2		2					31	
13:00~14:00				9	9	6	3	1	1	11	4	1			5	6	3	2	1	12					37	
14:00~15:00				11	11	5	3	4	1	13	1	2			3	5	1	1		7					34	
15:00~16:00				8	8	5	5	4	2	16	1		1		2	1	6	3		10					36	
16:00~17:15				18	18	6	5	3	2	16	3	1	1		5	3	4	4	1	12					51	
計				282	282	169	104	56	28	357	81	28	16	2	127	113	68	40	5	226					994	

*【虐待通告以外の相談の内訳】

(単位:件)

児相	虐待相談	養護相談(虐待を除く)	保健相談	障害相談	非行相談	育成相談	その他の相談	計
中央	13	127	2		3		15	169
県南	2	85				10	7	104
県北		44	1			6	5	56
不明	3	10				2	13	28
計	18	266	3	3		33	34	357

*【虐待通告経路の内訳】

(単位:件)

児相	家族	親戚	近隣・知人	児童本人	福祉事務	児童委員	保健所	医療機関	児童福祉施設等	警察等	学校等	その他	計
中央	23	6	57	8				4	2	11	1	1	113
県南	21	3	36	4					1	1	1	1	68
県北	11	1	21	2				1		2	1	1	40
不明	1		4										5
計	56	10	118	14				5	3	14	3	3	226

*【関係機関事務連絡における内訳】

(単位:件)

児相	福祉事務	児童委員	保健所	医療機関	児童福祉施設等	警察等	学校等	その他	計
中央			1	8	11	53	5	3	81
県南	2			3	8	13	1	1	28
県北				4	9	2	1		16
不明						2			2
計	2		1	15	28	70	7	4	127

平成30年度 南小学童保育センター年間行事報告

1.活動のねらい

1. 安全と安心を第一目的とし、心休まるアットホームな居場所を提供する。
2. 家庭との連携をはかり、不測の事態に的確に対応できるよう努める。
3. ボランティア団体等と連携をし、地域の中で豊かな心身を育む。

2.在籍児童数 30. 4. 1現在

	A			B			C			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1年	12	12	24	12	12	24				48
2年	11	10	21	13	10	23				44
3年	7	8	15	10	4	14				29
	30	30	60	35	26	61				121
4年							15	13	28	28
5年							7	4	11	11
6年							2	1	3	3
							24	18	42	42
合計	30	30	60	35	26	61	24	18	42	163

3. 主な行事 ①1～3年生(A・B センター)

主な行事	月日	参加人数A	参加人数B	参加人数	主な行事	月日	参加人数A	参加人数B	参加人数
鯉のぼり製作	4/19	52	54	106	敬老の日プレゼント製作	9/11	50	49	99
誕生会・歓迎会	4/27	48	53	101	誕生会	9/28	52	51	103
母の日カード製作	5/7	57	55	112	誕生会	10/31	51	50	101
こどもの日お祝い	5/2	45	44	89	ハロウィンお面製作	10/23	53	55	108
誕生会	5/31	57	57	114	ハロウィンパーティー	10/25	50	53	103
父の日カード製作	6/11	51	58	109	不審者対応訓練	10/29	50	53	97
誕生会	6/29	50	46	96	避難訓練	11/29	55	49	104
七夕飾り製作	6/20	53	52	105	七五三お祝い	11/15	55	54	109
七夕会	7/6	53	53	106	誕生会	11/30	51	53	104
誕生会	7/20	51	52	103	クリスマス飾り製作	12/19	58	51	109
学童給食	7/25	36	39	75	Xmas会	12/25	53	55	108
うちわ製作	8/8	28	44	72	誕生会	12/13	56	53	109
学童給食	8/8	28	44	72	絵馬・こま製作	1/8	52	56	108
お折り紙教室	8/7	32	38	70	誕生会	1/31	44	48	92
夏祭り(駄菓子屋さん)	8/10	31	31	62	豆まき	2/1	46	45	91
夏祭り(ヨーヨーすくい)	8/20	30	34	64	雛飾り製作	2/20	25	29	54
お折り紙教室	8/21	33	38	71	誕生会	2/28	51	54	105
学童給食	8/1	37	40	77	ひな祭り	3/1	50	53	103
学童給食	8/22	37	40	77	誕生会	3/15	49	48	97
ミニ上映会	8/23	33	39	72	おたのしみ会	3/18	52	51	103
お楽しみ会	8/24	31	40	71					
誕生会	8/31	50	54	104					

②4～6年生(C 分室)					
主な行事	月日	参加人数	主な行事	月日	参加人数
誕生会・歓迎会	4/27	36	敬老の日プレゼント製作	9/11	33
母の日カード製作	5/8	38	誕生会	9/28	31
誕生会	5/31	37	誕生会	10/31	28
父の日カード製作	6/12	32	ハロウィンパーティー	10/25	34
誕生会	6/29	30	不審者対応訓練	10/29	指導員対象
お楽しみビンゴ大会	7/24	26	誕生会	11/30	31
学童給食	7/25	24	クリスマス会	12/25	33
誕生会	7/20	30	誕生会	12/13	33
ブーメラン製作	7/25	16	絵馬製作	1/7	20
キーホルダー製作	8/1～3	27	誕生会	1/31	28
学童給食	8/8	25	豆まき	2/1	26
夏祭り(ヨーヨーすくい)	8/20	23	誕生会	2/28	26
牛乳パック工作	8/21	25	ひな祭り	3/1	23
学童給食	8/22	26	誕生会	3/15	25
夏祭り(駄菓子屋さん)	8/23	29	お別れ会	3/8	28
誕生会	8/31	29	ビニールロケット製作	3/22	25

③学習支援4～6年生(C 分室)									
5月	5/14	5/16	5/21	5/23	5/28				
6月	6/4	6/6	6/11	6/13	6/18	6/20	6/25	6/27	
7月	7/2	7/4	7/9	7/11	7/30	7/31			
8月	8/1	8/2	8/6	8/7	8/10	8/27			
9月	9/3	9/5	9/19	9/26					
10月	10/3	10/22	10/24	10/29	10/31				
11月	11/5	11/7	11/14	11/19	11/21	11/28			
12月	12/3	12/5	12/12	12/19					
1月	1/16	1/21	1/23	1/28	1/30				
2月	2/4	2/6	2/13	2/18	2/27				
3月	3/4	3/11	3/13	3/18					

平成30年度 南っ子食堂実施状況

実施日	人数	メニュー
4月11日	42	赤飯・鶏のからあげ・ポテトサラダ・味噌汁・プリン
4月18日	45	焼きそば・フランクフルト・スープ・ゼリー
4月25日	51	牛丼・漬物・味噌汁
5月2日	41	ご飯・鶏のからあげ・千切りキャベツ・皮つきポテト
5月9日	47	ご飯・鮭の塩焼き・肉じゃが・味噌汁
5月16日	50	ミートソーススパゲティ・サラダ・白桃缶
5月23日	50	三色丼・漬物・味噌汁・リンゴ
5月30日	48	ご飯・鶏のからあげ・ポテトサラダ・味噌汁
6月6日	47	ロコモコ丼・春雨スープ・ゼリー
6月13日	52	カツカレー・サラダ・福神漬・プリン
6月20日	38	ご飯・ミックスフライ・きゅうりとツナの和え物・味噌汁
6月27日	49	中華丼・揚げぎょうざ・スープ
7月4日	36	チキンと夏野菜のカレーライス・福神漬・らっきょう
7月11日	46	ご飯・煮込みハンバーグ・ポテト・人参グラッセ・パイナップル缶
7月18日	48	マーボー豆腐丼・揚げ焼売・ザーサイ・プリン
9月5日	42	ご飯・メンチ・きゅうりと中華くらげサラダ・味噌汁・パイナップル缶
9月12日	44	ミートソーススパゲティ・サラダ・ゼリー
9月19日	41	ご飯・サバの味噌煮・揚げ出し豆腐
9月26日	47	から揚げ丼・きゅうりのきゅうちゃん・味噌汁・ゼリー
10月3日	44	炊き込みご飯・モロの竜田揚げ・ほうれん草のお浸し・味噌汁
10月17日	51	ご飯・うさぎ型ハンバーグ・春雨サラダ・味噌汁・黄桃缶
10月24日	49	ミートソーススパゲティ・サラダ・ゼリー
10月31日	46	カレーライス・チップのせサラダ・福神漬
11月7日	49	ご飯・サワラ西京漬け・肉じゃが・味噌汁・ゼリー
11月14日	47	ご飯・鶏のから揚げ・きゅうりとタコの中華和え・味噌汁
11月21日	51	エビ天うどん・いなり寿司・ゼリー
11月28日	48	ハヤシライス・サラダ・ジュース
12月5日	48	たらこスパゲティ・コールスローサラダ・洋梨缶
12月12日	44	ご飯・鮭の塩焼き・いり鶏・味噌汁
12月18日	54	ご飯・煮込みハンバーグ・スープ・人参グラッセ・パイナップル缶
1月16日	43	ご飯・さばの味噌煮・まいたけと豆腐のふんわり天・味噌汁・ゼリー
1月23日	41	ご飯・豚の生姜焼き・ポテトサラダ
1月30日	49	焼きそば・揚げたこ焼き・スープ・ゼリー
2月6日	50	豚肉丼・たくあん・味噌汁・みかん
2月13日	41	ご飯・鮭の塩焼き・豚バラ大根・味噌汁
2月20日	48	ミートソーススパゲティ・サラダ・オレンジ
3月6日	49	ご飯・メンチ・春雨サラダ・味噌汁・パイナップル缶
3月13日	44	焼肉丼・味噌汁・みかん
38回	1760	

平成30年度事業報告（氏家養護園）

1. 運営全般について

平成30年度事業計画に基づいて事業運営を行った。「新しい社会的養育ビジョン」が国から明示され、栃木県においても今後十年間の社会的養護推進計画が取りまとめられているところである。氏家養護園としても同ビジョンを踏まえ、完全小規模化を推進していかなければならない。また処遇面に関しては、高校生女児のケアに苦慮した1年であった。高校生になってからの措置変更で入所してきた子と短期間で関係性を構築していくことの難しさを改めて感じさせられた。長期間・長時間関わることで構築される関係性ではあるが、今後の「新しい社会的養育ビジョン」においては、長期間の入所を善しとしていない面もあり、今後さらに関係性の構築が難しくなっていくことが予想される。

2. 児童の動向

(1) 学年別在籍数（措置児童）

平成30年4月1日現在（みやこ家・琴平の家を含む）

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	7		1	2	3			4	1		2				20
みやこ家											1	4	1		6
女	4	1		2	3		1	1	2		2				16
琴平の家											1	2	2	1	6
計	11	1	1	4	6		1	5	3		6	6	3	1	48

平成31年4月1日現在（みやこ家・琴平の家を含む）

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	8			1	1	2			4	2					18
みやこ家												3	3		6
女	4	2			1	2	1		1	2					13
琴平の家											2	2	2		6
計	12	2		1	2	4	1		5	4	2	5	5		43

(2) 月別入退所状況

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 数			その他	月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職・自立		

4	男	2 6						4 8
	女	2 3	1		1			
5	男	2 6						4 8
	女	2 2						
6	男	2 6		1				4 6
	女	2 2		1				
7	男	2 5						4 7
	女	2 2	1					
8	男	2 5	1					4 8
	女	2 2						
9	男	2 6		1				4 7
	女	2 2						
1 0	男	2 5						4 6
	女	2 2		1				
1 1	男	2 6	1					4 8
	女	2 2	1					
1 2	男	2 6						4 8
	女	2 3	1			1		
1	男	2 6						4 8
	女	2 2						
2	男	2 6						4 7
	女	2 2			1			
3	男	2 6	2		2	1		4 2
	女	2 1	1	3	1	1		

(3) 委託一時状況

学年・性別	児 相	保護の期間及び理由
幼児・女兒	中央	6 / 1 1 ~ 6 / 3 0 養育者入院
中 3・女兒	中央	1 0 / 9 ~ 1 0 / 3 1 里親不調
小 5・女兒	県北	1 0 / 1 1 ~ 1 0 / 3 0 ネグレクト
小 5・女兒	県北	1 1 / 3 0 入所調整
小 2・女兒	県北	1 2 / 1 2 ~ 2 / 4 身体的・精神的虐待
小 4・女兒	県北	2 / 2 6 ~ 4 / 2 身体的・精神的虐待

(4) トワイライト及びショートステイ状況

月	年齢・性別	延日数			
4月	6歳男児、7歳男児	2	10月	7歳男児・8歳男児	2
5月	6歳男児、7歳男児	4	11月	7歳男児・8歳男児、4歳女児・7歳女児	4
6月	6歳女児・7歳男児	8	12月	4歳女児・7歳女児	
7月	6歳男児・7歳男児	4	1月		
8月			2月		
9月	7歳男児・8歳男児	2	3月		
			計		26

(5) 卒業生の進路

幼稚園 ○○○○ → さくら市立南小学校1年（在園）
 ○○○○ → //

小学校 ○○○○ → ○○市立中学校1年（家庭復帰）
 中学校 ○○○○ → 私立○○○○高等学校1年（琴平の家へ異動）
 高校生 ○○○○ → 県立○○○○高校卒業→株式会社○○○○ 就職自立
 ○○○○ → 私立○○○○高校卒業→株式会社○○○○（県外） 就職自立

3. 養護の状況

(1) 給食

嗜好調査を行い、子ども達の声を聞きながら新しいメニューも取り入れた。

朝食・夕食のグループで作れるものはグループで作り、食べることによって、家庭的な環境で会話を楽しみながら食事をし団欒する事が出来る様になった。また余った食材等も次の食事に回したり工夫する事によって残食もかなり減った。子どもたちも卵料理やチャーハンなどの簡単な調理は進んで行う様子が多く見られた。今後も食事のマナーなどについて、幼児のうちから身につけられるよう支援していきたい。

また今後も引き続き、子ども達が楽しく食事が出来る食卓づくりを目標として行きたい。

(2) 健康管理

①健康管理

看護師を配置し、全職員で子どもたちの健康管理に留意し、全体的な健康管理も良好であった。ケースワーカーの子ども健康状態を見極める目線もだいぶ定着してきた。(のべ通院人数：746人、通院月平均：62人)

小3女児が周期性嘔吐症のため、月1～2回位の頻度で嘔吐の症状がみられている。前年度は、外来で点滴の処置をしていたが、今年度は専門外来のある病院に変更し相談した結果、ADHDや愛着障害なども症状の誘引になっ

- ・子どもの虹 橋本（指導者研修）、亀山（指導者合同研修）
- ・SBI研修 高橋
- ・中堅職員 竹石、齋藤（千）
- ・FSW研修 永井

とちぎユース協同組合 亀山

その他被虐待児、性的、発達障害、学習指導給食関係に関する研修

月 日	研 修 名	場 所	参 加 者
4/27	栃養協新任職員研修①	とちぎ福祉プラザ	佐藤 福田亘 福田恵 片岡 鈴木
5/16	栃養協中堅職員研修①	パーティとちぎ	松本 郡司 加藤
5/22	給食従事者研修会	塩谷庁舎	加藤
6/4～5	施設長及び幹部職員研修	那須スポーツパーク	園長 酒井 小野 齋藤
6/7・8	栃養協若手職員研修①	とちぎ青少年センター	雫 小暮 吉澤
6/25	栃養協新任職員研修②	福祉プラザ	佐藤 福田亘 福田恵 片岡
7/5～6	関ブロ児童養護施設研究協議会	鬼怒川あさやホテル	園長 亀山 齋藤千 郡司 齋藤
7/10	職業指導員専門研修	東京至誠学園	亀山
7/13	栃養協上級職員研修①	パーティ	大谷の 小野
7/18	里親委託推進委員会	中央児相	橋本
7/30	施設処遇援助事業①	県庁	神谷
8/10	栃養協上級職員研修②	パーティ	大谷の 小野
8/17	施設処遇援助事業②	県庁	神谷
8/28	上級職員合同研修③	青少年センター	大谷の 小野
9/11	栃養協新任職員研修③	とちぎ青少年センター	佐藤 福田亘 福田恵 片岡
9/21	栃養協若手職員研修②	とちぎ青少年センター	小暮 雫
9/25～26	栃養・CW 部会新任職員研修④	那須スポーツパーク	松本 郡司 佐藤 福田亘 福田恵 片岡
9/27	栃養協上級職員研修④	青少年センター	大谷の 小野
	中堅職員研修②	青少年センター	舘野 三ッ俣 橋本 松本 郡司 加藤
10/2	栃養協上級職員研修⑤	パーティ	大谷の 小野
	中堅職員研修③	パーティ	舘野 三ッ俣 橋本 松本 郡司 加藤
10/4～5	関ブロ児童養護施設職員研修会	熱海後楽園ホール	関

10/14	栃木県里親大会	パーティ	橋本
10/16~19	全国児童養護施設長研究協 議会	札幌市	園長
10/25~26	関プロ野球大会	東京あきる野市	舘野 永井 高橋
11/13	里親研修会	県南児相	橋本
11/20	アフターケア関係者研修会	とちぎ青少年センター	亀山 大谷 舘野 松崎
11/27	栃養協新任職員研修⑤	青少年センター	佐藤 福田亘 福田恵理 片岡
11/29	栃養協若手職員研修③	パーティ	雫 小暮
12/1~2	社会福祉士実習指導者講習 会	東北福祉大 仙台東口 キャンパス	永井
12/6	里親委託推進委員会	昭和館	橋本
12/7~9	全国秋季セミナー	国立オリンピック記念 青少年センター	神谷
1/16~18	子どもの虹 児童福祉施設 指導者合同研修会	子どもの虹研修センタ ー	亀山
1/12~14	SBI（前期）児童養護職員研修 会	サンルート有明	高橋
1/21~22	ファミリーソーシャルワー ク研修（全養）	TOC 有明 コンベン ションホール	永井
1/24	栃養協上級職員⑥	青少年センター	大谷の 小野
1/24	被措置児童等虐待防止研修 及び長期派遣研修	とちぎ青少年センター	片岡 栗田 佐藤 福田恵 手塚
2/22	里親全体研修会	パーティ	橋本
3/4	アンガーマネージメントの 援助技術向上を図る研修会	那須学園	高橋 神谷

・上記以外に栃養協のケアワーカー部会、F S W部会、心理部会、調理員部会、書記部会、看護師部会、里親部会、ユースアフター部会のそれぞれの研修部会に参加。

・法人研修の実施・参加（テーマごとに対象者が参加した）

・施設内研修に全職員参加

(4) 行事

日 時	行 事 名	行き先及び内容	参 加 児 童
4 / 2 2	ファインフィールドフェスティバル (招待事業)	宇都宮総合文化会館	幼8名・小7名 職7名
5 / 5	第3回ふれあい祭り	園内	大人357名 子ども288名
5 / 5	端午の節句	園内	全児童
6 / 2 3	宇都宮タイフェスティバル (招待事業)	オリオンスクエア	小7名・中6名 職5名
7 / 7	七夕	園内	全児童
7 / 3 1 ~ 8 / 1	小学生キャンプ	水戸～鎌倉	小11名 職7名
8 / 3	プール (ひだまり)	さくら市総合公園プール	小4名・職2名
8 / 3	プール (おおぞら)	真岡市一万人プール	小2名・中3名 職2名
8 / 6	中学生旅行	東京方面	中8名・職4名
8 / 7	グループ行事 (だいち)	ベルモール	小3名・中2名・高1名・ 職2名
8 / 9 ~ 1 0	幼児キャンプ	那須方面	幼12名 職7名
8 / 1 7	グループ行事 (おおぞら)	ろまんちっく村	幼6名・職4名
8 / 1 7 ~ 1 8	高校生旅行	横浜・鎌倉方面	高12名・卒園2名 職6名
8 / 2 0	VR体験 (招待)	宇都宮VRsalon	小7名・中3名 職4名
8 / 2 1	グループ行事 (そよかぜ)	真岡市一万人プール	小3名・中1名 職2名
9 / 1 5	栃木SCサッカー観戦 (招待)	グリーンスタジアム	小5名・中4名 職3名
9 / 2 4	十五夜	園内	全児童
1 0 / 7	里親交流会	鬼怒グリーンパーク	幼11名・小6名 中1名・職12名
1 0 / 1 3	宇都宮大学ものづくり体験	園内	幼13名・小8名 中1名・職6名

11/11	七五三	御嶽神社	幼5名・小1名 職3名
11/24	社会体験	東京ディズニーリゾート	幼13名・小6名 中10名・高5名 職22名
12/1	渡辺けあきプロボウリング招待	第2トーヨーボウル	幼12名・小1名 中1名・職6名
12/2	さくら市更生保護女会施設訪問	園内	全児童
12/12	プロレスリングノア招待	鹿沼ウェルサンピア	中3名・職2名
12/24	クリスマス会	園内	全児童・全職員
12/28	もちつき・大掃除	園内	全児童・全職員
2/3	児童文化祭	高根沢町民ホール	幼11名・小13名 中10名・高3名 職31名
2/3	節分	園内	全児童
2/9	きらりさくら市バスケット観戦招待	ブレックスアリーナ宇都宮	小10名・中8名 職8名
2/23～ 24	スキー・スノーボード	会津高原たかつえスキー場	小6名・中9名 高3名・職10名
3/3	桃の節句	園内	全児童
3/17	卒業を祝う会	園内	全児童・全職員
3/22	グループ行事（だいち）	ベルモール等	小2名・中3名 高1名・職5名
3/25	食育見学	岩下新生姜ミュージアム・グリコ工場	幼2名・小9名 中3名・職8名

4. 施設の社会化

(1) 施設実習

淑徳短期大学	5/8～5/19	2名
中央福祉医療専門学校	5/11～5/28	2名
淑徳短期大学	5/21～6/1	2名
宇都宮共和大学	6/4～6/14	2名
国際介護福祉専門学校	7/3～7/12	2名
国際介護福祉専門学校	9/24～10/4	2名
足利短期大学	7/27～8/6	2名
足利短期大学	8/16～8/27	1名

足利短期大学	3 / 1 ~ 3 / 1 1	2 名
国学院大学栃木短期大学	8 / 2 8 ~ 9 / 7	2 名
佐野日本大学短期大学	9 / 8 ~ 9 / 1 9	2 名
白鷗大学	2 / 1 8 ~ 2 / 2 8	2 名
白鷗大学	3 / 1 ~ 3 / 1 1	2 名

合 計 2 5 名

(2) 里親養育体験

(3) ボランティアの受け入れ

奉仕作業・・・さくら市更生保護女性会 (1 2 / 2)

個人 5 月・8 月

クリスマス会・・・サンタの会 (12 / 22)

ふれあい祭り・・・個人、仁愛グループ他 1 0 5 者 (5 / 5)

余暇支援・・・宇都宮大学学生ボランティア (10 / 13)

定期的な寄付・・・マルハン氏家店 / 那須塩原店 (お菓子)、(有)くるまやラーメン:齋藤保夫 (米、餃子)、小倉商店 (食材)、松崎屋 (食材)、丸亀精肉店 (肉)、チュチュアンナ 1% クラブ (靴下)、一枚焼肉あんぼたん (毎月焼肉招待)

(4) 施設見学

5. 各グループ事業報告

「おおぞら」

(1) 子どもの構成

- ① 中学 1 年男児 氏家中学校
- ② 中学 1 年男児 氏家中学校
- ③ 中学 1 年男児 南那須特別支援学校
- ④ 小学 4 年男児 南小学校
- ⑤ 小学 3 年男児 南小学校
- ⑥ 幼稚園年中男児 氏家幼稚園
- ⑦ 幼稚園年中男児 氏家幼稚園
- ⑧ 幼稚園年中男児 氏家幼稚園
- ⑨ 幼稚園年中男児 氏家幼稚園

- ⑩ 幼稚園年中男児 氏家幼稚園
- ⑪ 幼稚園年少男児 氏家幼稚園
- ⑫ 幼稚園年少男児 氏家幼稚園

(2) 職員構成

小野明美 (保育士・グループリーダー)
 関 智史 (保育士)
 齋藤千尋 (保育士)
 松本晴紀 (保育士) *4月～8月 (9月よりひだまりグループへ異動)
 吉澤さやか (非常勤指導員) *4月～6月
 栗田敬隆 (非常勤指導員) *7月～3月
 手塚真弓 (非常勤指導員) *10月～
 福田 亘 (学童指導員)
 細島由香 (学童指導員) *1月～3月

(3) 通学状況

氏家中学校 2名 (自転車)
 南小学校 2名 (徒歩)
 ○○○○学校 1名 (送迎・スクールバス)
 氏家幼稚園 7名 (幼稚園バス)

(4) グループ行事

8月 一万人プール (小学生・中学生)
 ろまんちっく村 (幼児)
 3月 食事会

(5) 定期通院状況

済生会病院・耳鼻科	1名	4ヶ月	1回
済生会病院・小児科	1名	1ヶ月	1回
済生会病院・小児科	1名	6ヶ月	1回
国際医療福祉大学病院リハビリセンター	1名	1ヶ月	1回
国際医療福祉大学病院・眼科	1名	2ヶ月	1回
自治医大病院・泌尿器科	1名	年	1回
おのこどもクリニック	4名	1ヶ月	1回 (服薬)
中川耳鼻科	2名	1ヶ月	1回 (服薬)
中津川クリニック	1名	1ヶ月	1回 (服薬)

くりばやしこどもクリニック	1名	1ヶ月	1回
福澤歯科	1名	1ヶ月	1回

(6) 生活状況

- ・幼児が多く賑やかだった。
- ・年度途中に、職員の異動・退職等があり、落ち着かなかった。
- ・全員順調に、登園・登校が出来た。
- ・小学生の学習する習慣は身につけている。中学生の学習はなかなか定着しないが、少しずつ宿題等、自ら行う姿が見られるようになってきた。
- ・年上の子が、幼児を可愛がり面倒を見る姿も見られたが、幼児の騒がしさに我慢できず、年上の子が幼児に対し、強く当たってしまうことも見られた。
- ・食物アレルギーを持つ子がいるが、みんなが意識し、協力して対応してくれた。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、元気に過ごす。
- ・中学生の家庭学習の習慣化を図る。
- ・自分の持ち物の整理整頓ができ、物を大切にすることを養えるよう支援する。
- ・挨拶、お礼が言えるようにする。
- ・思いやりの心が養える様支援する。
- ・様々な社会体験を通して、自分にできることを見出すとともに、自己肯定感が持てるよう支援していく。
- ・幼児が多いので、安心・安全な環境を更に整える。

「だいち」

(1) 子どもの構成 (小規模グループケア)

①高校1年生男児	県立〇〇高校	※平成31年	3月27日…地域小規模みやこ家へ異動
②中学2年生男児	氏家中学校		
③中学2年生男児	氏家中学校	※平成30年	8月21日…他施設から入所
④中学1年生男児	氏家中学校		
⑤小学5年生男児	南小学校	※平成30年11月	1日…一時保護所から措置入所
		平成31年	2月21日…一時保護となる
⑥小学4年生男児	南小学校		
⑦小学4年生男児	南小学校	※平成30年	8月31日…家庭復帰
⑧小学3年生男児	南小学校	※平成31年	3月8日…家庭復帰
⑨小学2年生男児	南小学校		

(2) 職員（正職員4名、）

三ツ俣 悟（男性）保育士・グループリーダー
高橋 亮人（男性）保育士・個別対応職員
佐藤 晴美（女性）児童指導員
竹村 有貴（男性）心理士

(3) 通学状況

県立〇〇高校 1名（自転車、バスを利用して通学）
氏家中学校 3名（自転車通学）
南小学校 5名（徒歩通学 ※通学指導として職員1名が付き添い）

(4) グループ行事報告

8月 映画鑑賞・外食
3月 ボーリング・外食

(5) 定期通院状況

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター 3名 月1回・服薬あり
きぬの里クリニック（内科・アレルギー性鼻炎） 2名 月1回・服薬あり
桧山医院（皮膚科・イボ治療、アレルギー性皮膚炎） 1名 月1回・服薬あり

(6) 生活状況

- ・年度途中の入所に伴い、グループの雰囲気が変わり、落ち着きがなくなってしまう、些細なことでの言い合いが増えた時期があった。
- ・日課や規則を細かく管理することなく、子どもたち自身が考えながら生活をすることができていた。
- ・個々に課題がある中で、現状に向き合いながら学校生活を送ることができた。その中で、皆勤を達成できた子どももいた。
- ・家事や身の回りの暮らし方について、伝える機会を多く持てた。また、日々の調理を通して食を通じた関わりをもつことができた。

(7) 今後の課題

- ・子どもたちが自己肯定感を育んでいけるように、安心感のある場所で、大切にされる体験を提供するということを、職員間で共有して支援をしていく。
- ・健康に留意して、心身ともに成長をしていけるように、声を掛け見守っていく。
- ・個々に合った基本的な生活習慣を身に付けていけるよう支援する。

- ・学習に対して意欲的に取り組み、習慣化に繋がるよう、個々に合わせて実現可能な目標設定をして支援をしていく。
- ・自立を視野に入れ、部活動や様々な活動を通して社会性を養って行けるように支援していく。

「ひだまり」

(1) 子どもの構成

- ①中学2年 女児 氏家中学校
- ②小学6年 女児 南小学校 (H30.7.16 よりそよかぜグループへ異動)
- ③小学5年 女児 南小学校 (H30.12.1 入所)
- ④小学4年 女児 南小学校
- ⑤小学4年 女児 南小学校
- ⑥幼稚園年長 女児 氏家幼稚園
- ⑦幼稚園年長 女児 氏家幼稚園
- ⑧幼稚園年中 女児 氏家幼稚園
- ⑨幼稚園年中 女児 氏家幼稚園
- ⑩5歳 女児 在園 (H30.7.1 入所)

(2) 職員構成

- 酒井春子 (主任保育士、グループリーダー)
- 永井健二 (指導員) H30.7.16 よりそよかぜグループに移動
- 神谷奈穂 (指導員)
- 小暮千晴 (指導員)
- 福田恵理 (保育士)
- 片岡弘江 (非常勤保育士補助) H30.6.13～H30.10.30 そよかぜグループ
- 中西頌弥 (非常勤指導員) H30.12.1～H31.3.31
- 松本晴紀 (保育士) H30.9.1～おおぞらグループより移動 (H30.12.1～育児休業)

(3) 通学状況

- 氏家中学校 1名 (自転車)
- 南小学校 4名 (徒歩)
- 氏家幼稚園 4名 (通園バス)

(4) グループ行事

- H30.8.3 小学生プール (さくら市総合公園プール)
- H31.3.20 グループ食事会

(5) 定期通院状況

- ・自治医科大学附属病院（眼科） 2名
- ・中津川クリニック 1名
- ・おのこどもクリニック 3名（服薬あり）
- ・済生会病院（小児科） 1名
- ・西真岡こどもクリニック 1名（服薬あり）
- ・国際医療福祉リハビリテーションセンター 1名（服薬あり）
- ・国際医療福祉大学塩谷病院 1名

(6) 生活状況

- ・年度の途中で職員や児童のグループ移動・休暇があり、担当の変更等落ち着かなかった。
- ・健康面では突発的な発熱や嘔吐があり、通院し投薬で治療した。感染症に患う子はいなかった。
- ・小学生は皆勤になるほど、とても元気に登校し、学習に力を入れることができた。

(7) 今後の課題

- ・健康に留意し、身体面・心の面も強くなり、欠席・早退等がなくなるよう励まし、支援していく。
- ・基本的な、生活習慣を身に付け、個々の生活スタイルを重視し、毎日元気に生活できるよう支援する。
- ・色々な経験を通して、出来るということを実感させ、自身に繋がるよう支援する。

「そよかぜ」

(1) 子どもの構成

- ①高校1年女児 県立〇〇高校→平成30年12月29日琴平の家移動
- ②中学3年女児 氏家中学校→平成31年3月
- ③中学2年女児 氏家中学校→平成30年11月14日から一時保護
平成31年2月13日から一時保護。その後那須学園に措置変更となる。
- ④中学1年女児 氏家中学校
- ⑤小学6年女児 南小学校→平成30年7月16日ひだまりより移動
平成31年3月22日付けで家庭復帰のため措置解除
- ⑥小学4年女児 南小学校→平成31年3月26日付けで家庭復帰のため措置解除
- ⑦小学3年女児 南小学校→平成31年3月26日付けで家庭復帰のため措置解除
- ⑧小学1年女児 南小学校→平成31年3月8日付けで家庭復帰のため措置解除

(2) 職員構成

伊藤節子（保育士・グループリーダー）平成30年7月16日まで

永井健二（指導員・グループリーダー）平成30年7月16日より
竹石朋浩（指導員）平成30年6月13日～琴平の家へ移動
郡司岬（保育士）
片岡弘江（非常勤保育士補助）平成30年6月13日～10月30日
後藤華織 平成30年11月1日～平成31年3月31日
橋本繁明（里親支援専門相談員）

(3) 通学状況

氏家中学校 3名（自転車）
南小学校 4名（徒歩）

(4) ユニット行事

8月 プール（一万人プール）
11月 グループ調理
2月 グループ調理
グループ外食（すたみな太郎）
3月 ユニットお別れ会

(5) 定期通院

国際医療福祉大学リハビリセンター	2名	月1回・2ヶ月に1回	服薬
栃木リハビリセンター	1名	3ヶ月に1回	服薬
桧山医院	1名	月1回	服薬

(6) 児童相談所関係

フォローアップ 小学6年女児 月1回

(7) 生活状況

- ・今年度は、グループの職員の変更があり、また個別の中学生の生活が落ち着かず他児の生活にまで影響してしまっただ。
- ・家庭調整を積極的に行い、年度末での3名の家庭復帰に結び付けられた。
- ・学習（宿題）の取り組みの習慣化は出来ているものの、最後まで完遂することが困難なところや、取り組みに対してその場の気分に左右されてしまうことが頻繁に見られた。

(8) 今後の課題

- ・次年度構成メンバーが大きく変わるので、再度生活の組み立てを行い、落ち着いた雰囲気での生活できるよう支援していく。

- ・温かみと笑顔があり、他者を思いやる気持ちを持てるよう支援していく。
- ・できたことは十分に認め褒めながら、自己肯定感を育ていけるようにしたい。また、できない事には職員も一緒になり取りくみながら、達成感を感じられるような関わりを持ちたい。

地域小規模児童養護施設「みやこ家」

(1) 子どものメンバー

○ 在園児童（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

県立高校 3 年	男児	平成 31 年 3 月 25 日就職自立措置解除
私立高校 2 年	男児	在園
私立高校 2 年	男児	在園
県立高校 2 年	男児	在園
県立高校 2 年	男児	平成 30 年 6 月家庭復帰のため措置解除
県立高校 1 年	男児	在園
県立高校 1 年	男児	平成 30 年 6 月本園より移る、在園

○ 職員

舘野 義博／指導員 松崎 剛史／指導員 長内 紀代子／非常勤

○ 行事報告（参加児童）

平成 30 年	5 月 5 日	ふれあい祭り
	6 月	外食会…焼肉むらかみ
	8 月 17・18 日	高校生旅行／神奈川方面
	12 月 24 日	クリスマス会
平成 31 年	1 月	外食会…藤原家
	2 月 23・24 日	スキー、スノーボー旅行
	3 月 17 日	卒業を祝う会
	3 月 19 日	外食会…焼肉キング

『今年度の振り返り』

○健康面

定期通院をする児童はいなかった。体調不良などの時は職員の付き添いで適時通院した。部活をやっている児童は、捻挫、打撲などの怪我を負ってしまう事があり整形外科への通院が多かった。

高 2 男子、部活動の試合中に前歯が折れることがあった。歯医者にて差し歯治療を行う。

○日常生活

4 月に本園から新高 1 男子が引っ越しとなり 6 名で新年度がスタートした。6 月に高 2 男子が家庭復

帰となり、本園から高1男子が引っ越しとなる。

生活では、在園児童が比較的落ち着いた子たちが多く、日々の生活も平穩に過ごすことができた。高校生という事もありある時間のルールなどはほとんど設けなかった。しかし、個別にみると食事や入浴が遅くなったり周りに迷惑をかけてしまうような生活、行動には、個人及び全体へ話をした。朝は自ら時間を考え起床することが出来る児童は少ないが声掛けにより起床できる。登校も渋る児童はいなく、全体的にほぼ登校できている状況だった。

TVゲームプレーの時間、場所についてゲームをしていない児童より不満が出た。ゲームをする子とルールの話し合いをして決めたことで対応とした。

部活入部者はほぼ毎日部活動をしている。土日も部活で家にいないことが多かった。所属部の友人らと部活帰りに遊んで来たり、外食をしてきたりなど良好な関係であることもうかがえた。

入部したものの活動が少ないこと、貯金のためにバイトもやりたいという理由で退部した児童、本当は入部したくなかったが顧問に入部を押し切られ活動する児童もいた。その後、部活は休みがちになり後半は全く行かなくなった。

自転車乗車中に普通乗用車との接触事故があった。幸いにもお互いにケガはなかったが、修理に対して過失が発生してしまうことがあった。

○学校・進路

学校生活では、全体的に登校状況もよく学校への意識が十分に感じられた。頭髪検査、スマホ所持など細かい指導をされることはあったが、他の強い指導を受けることはなかった。学習では赤点を取ってしまう子もいたが、進級は出来た。

卒業生1名は企業への就職を決めた。ほぼ皆勤の登校状況だったため希望勤務地、寮付きなど条件の合う企業への就職を早期に決めることができた。

○家族との交流

交流が続いているケースに関しては、長期休み時での帰省などをした。

年度末にあるケースで両親を交えて進路へ向けての児の意向確認がされた。卒業後も考え、両親も交え児の養育をしていくことが確認できたよい機会となれた。その後、このケースでは途絶えていた連絡・帰省が再開した。

『次年度に向けて』

- ・安定した高校生活を送れるよう支援する
- ・次年度は卒業予定者が3人いる。進路の意向を固め、決定、実現のために支援する。
- ・リービングケアの充実
(調理や、洗濯等の家事全般を実際に取り組んでもらい、生活スキルの向上を図る)
- ・自主性と自立心の促進を支援する

(30年度には卒園生が仕事をリタイアし、みやこ家に居候することがあった。本園と小規模施設は、卒園生にとって行き詰った時に頼れる場所であることの認識は必要でセーフティネットとしての役割も担えるのだが、在園中に自立後の生活を意識してできるよう、職員側も意図的に関わりを持って行く)

地域小規模児童養護施設「琴平の家」

・子どものメンバー

- 1 大学1年生(女子) 私立〇〇〇〇大学(12月措置解除)
- 2 高校3年生(女子) 私立〇〇〇〇高校
- 3 高校3年生(女子) 県立〇〇〇〇高校(10月措置解除)
- 4 高校2年生(女子) 県立〇〇〇〇高校(6月措置解除)
- 5 高校2年生(女子) 私立〇〇〇〇高校
- 6 高校1年生(女子) 県立〇〇〇〇高校
- 7 高校1年生(女子) 私立〇〇〇〇高校(6月本園から移動3月措置解除)
- 8 高校1年生(女子) 県立〇〇〇〇高校(12月本園より移動)

・職員 3名

- 1 大谷典(女) 保育士
- 2 大音(男) 指導員(6月退職) 竹石(男) 指導員(6月本園から移動)
- 3 鈴木(女) 非常勤保育士

・通学状況

定期券を使い、JR・路線バスの公共交通機関を利用して通学している。

・行事報告

- 1 H30年5月5日 ふれあい祭り(本園行事に参加)
 - 2 H30年8月17日～18日 施設機能強化推進事業 高校生研修旅行(鎌倉、横浜方面)卒業生との交流
 - 3 H30年12月22日 サンタの会(本園行事)
 - 4 H30年12月24日 クリスマス会(本園行事)
 - 5 H31年3月17日 卒業を祝う会(本園行事)
- * 高校生を主に対象としたユースアフター主催の自立支援プログラムに参加。
 - * 子どもの誕生会実施(希望に応じての誕生食メニュー作りをしてお祝い)
 - * 不定期で子ども達を連れ外食。

・定期通院状況

氏家病院精神科に1名通院

大学1年生はH27年12月に本児からの希望と児相の見立てより氏家病院精神科にて診察。うつ症状の表れと診断。その後、治療、服薬があるため通院。飲み薬処方。

・児童相談所による定期的面談実施状況

高校3年女子…性的問題、生活時間の乱れなどがあつたため児相CW、心理の面接が月に2回（CW1回、心理1回）行われていた。

・生活状況

4月に本園から1名、養徳園から1名の入所があり大学生1名、高校生5名の6名でのスタートとなった。卒業年度児が2名いたが1名は10月に家庭引き取りとなる。もう1名は就職を選択。登校状況が思わしくない为学校推薦がもらえず自分で就職先を探すように。県外の株式会社〇〇〇〇に就職が決まる。遅刻、欠席多く3月1日には卒業できず。補講を受け20日に卒業できた。

6月に1年生が中退し家庭引き取り措置解除。本園から1年生が移動してくるも中退。3月に措置解除となる。10月の1名措置解除に伴い12月本園から1年生が移動。

夜遅い時間になつても連絡が取れず帰つてこないので警察に捜索願ひを出した児童が3名いた。落ち着いたのらない1年であつた。

高校生としての自覚を持つて生活をするこ、高校へは休まず行くよう日々伝える。また学校生活・アルバイト等、個々が目的意識を持ちながら、意欲的に取り組むことができるような支援をした。

琴平の家での生活は、健康的な生活を送るこを目標に、規則正しい秩序ある生活・充実した食生活を意識させた。同年齢の子どもたちで、共通した話題で盛り上がりたり、反面お互いを認め合えず距離ができたりし職員が介入することも度々あつた。

アルバイトはレジ業務、調理補助などをやっていた児童が3名。

各自のバイト代は、将来の自立のための貯金や自身の携帯電話代などに当てた。アルバイトを通し、働いてお金を得ること、継続していくこの大変さを知り、社会経験を積む貴重な場となつている。

・今後の目標

- 1 安定した高校生活を送れるようにする。
アルバイト等、計画的に行えるように。
- 2 進路についての意識付けをしっかりと行うこ。
- 3 学習の習慣づけを行う。
学習環境を整えるとともに、またテスト前の取り組みもしっかりとできるようにする。
- 4 リーディングケアの充実。
- 5 自主性と自立心の促進。
- 6 健康への意識付け。

うがい、手洗い、日々の食生活を通して意識を高める。

また性についての正しい知識や脅威、身体及び病気に対して対応できるよう話していく必要がある。

8. 各支援グループ反省

①余暇支援グループ

4月18日 第1回 余暇支援会議実施

実施内容

【今年度の行事担当者の割振り】

- ・大きな行事（クリスマス会、卒業祝う会等）に関しては、昨年度の経験者を主とし、職員全員が各行事担当になるよう振り分けた。
- ・今年度七五三対象児童が多く、担当職員もバラバラであったため、今年度は七五三担当を決め、総括してもらったこととした。
- ・招待行事は、余暇支援グループの中から数名担当者を決めた。

【社会体験行事について】

- ・子ども会議グループに協力を得ながら、子どもたちがディズニーランドに行きたいか、また、他に行きたい場所があるかを聞き出したらどうか。
- ・4つほど行先の選択肢を考え、子どもたちに選んでもらうのはどうか。
- ・全員で同じ場所に行く必要もない。子どもの希望に合わせて、行先を数カ所に分けても良いのではないか。

7月17日 第2回 余暇支援会議実施

実施内容

○場所の検討

（意見） ・横浜方面 クルージング

カップヌードルミュージアム

} バスツアーのようにするのはどうか。

- ・中華街
- ・八景島シーパラダイス
- ・アンパンマンミュージアム
- ・サンリオピューロランド

●子どもたちの希望を聞く。

「どこ行きたい？」と聞いても、幼児や小学生は具体的な場所を言わないのではないかと

か所提示して選択してもらうのはどうか。子どもたちから「今年はディズニーだよね？」という言葉も聞かれるため、ディズニーランドは選択肢の中に入れてたい。

⇒夏休み期間中に残り2か所を各自で考え、決定していく。

○時期の検討

10月23日 第3回 余暇支援会議

実施内容

【行事確認】

社会体験…南ヶ丘 JBC は大会の為不参加。

行き方、内容に関して、様々なパターンで考えてみる。

七五三…担当が変わる子もいるが、後任、もしくはそよかぜ職員で対応する。

12/22 サンタの会 18:00～食堂にて行う。流れは例年通り。

12/24 クリスマス会 10:00～食堂にて行う。

12/28 大掃除・餅つき

1/1 初詣 各グループで行うのか、全体で行うのか、12月の職員会議で提示できるように、担当者と話をしていく。

1/26 バスケットボール試合観戦招待

1月15日 第4回 余暇支援会議実施

実施内容

*今後の行事確認

2/3 端午の節句、文化祭

2/9 AM 育成会レクリエーション PM 栃木ブレックス試合観戦招待

2/22～23 スキー・スノボ

3/3 桃の節句

3/17 卒業を祝う会

3/25 工場見学

★各行事の進捗状況をまめに確認する。余暇係から行事係へ一声かける。

*余暇係として

各行事を気にかける。1つの行事が終わったら終わりではない。

行事の係決めも慎重に行う。

*3月のグループ支援会議で決算報告を行う。

3月20日 第5回 余暇支援会議実施

実施内容

*決算報告

*今年度の行事の振り返り

*園長より

- ・養護園の中でも特に大きな行事(クリスマス会、卒業を祝う会)は、ある程度分かる人が係になる必要があると思う。経験者と未経験者をバランスよく組み合わせる。
- ・H31年度ふれあい祭り係(現時点確定)…亀山、橋本、竹村、神谷
各職員が順番に経験してほしい。
- ・H31年度文化祭係(現時点確定)…亀山、橋本、竹村、小暮
- ・来年度のGWは大型連休になるため、子どもたちが退屈せずに過ごせるよう工夫が必要。
- ・様々な行事に言えることだが、毎年同じことをするのではなく、新しいことを考えて、たくさん意見を出してほしい。考えた上で前年度と同じというのであれば仕方ない。考えることが大切。(園長より)

○H31年度GW行事

- ・大型連休になるためGW行事を設け、園全体での外出を計画する。
- ・今年度余暇係の高橋、郡司が係となり計画する。
- ・時期は4/28、29あたりで検討。

○H31年度招待行事(決まっているもの)

- ・6/22, 23 のどちらかで、宇都宮タイフェスティバル
- ・12/1 渡辺けやき様ボウリング招待

平成31年度反省

- ・各行事、係に振ったから終わりではなく、進捗状況を確認する必要があった。
全体的に立案等が遅く、全体への周知などが遅れてしまっていた。来年度はそのようなことがないように、リーダー等が中心になり状況を確認する必要があると感じた。
- ・係を決める際は前年度の分担を参考にしながら、経験者と未経験者のバランスを考え、偏りのないようにしていく必要があった。
- ・平成30年度行事一覧別紙参照

②子ども会議グループ

平成30年4月18日(水)グループ会議実施

○前年度の振り返り

- ・従来の子ども会議の形態では、出てくる意見が頭打ちになってきた。
- ・テーマを決めずにただ子ども達を集めて会議をするのではなく、大人側から目的を持って子ども達を集め、伝えるべきことを伝え、話し合う場にするのも良いのではないかという意見が出た。
(例：パソコン・携帯電話・ゲーム機などのインターネットの使い方、性教育、人権等)
- ・意見箱に意見が投入される件数もここ数年少なくなってきたが、引き続き日常場面で子どもの要望や意見を聞き逃さないよう注意していく姿勢が重要である。

○今年の方針

- ・子どもの部活動、生活時間の違いによって全体で集まって会議をする事が難しい。グループによって子どもの状況や必要な支援等も変わってくるので、全体での会議にこだわらず、より小規模なグループで短時間行う方がまとまりのある話もできるし、年少児が委縮することも減ると考えられる。
- ・昨年度課題に上がった職員から子ども達に積極的に伝えていく事として、今年度は児童相談所から配布されている児童の権利手帳を基にして、施設入所児の権利について話すこととする。
- ・一年間を通じて、児童養護施設でもできること、子ども達一人一人が自分の権利を理解し、同時に他児の権利を奪わないことも理解することを目指す。また、施設の職員ができることと限界、他児の権利を奪う行動に対しては厳しい姿勢で関わることも確認しながら行う。
- ・職員一人ひとりが子どもの権利を守り、広げていけるよう、職員会議等でも積極的に子ども会議の情報を共有する。
- ・会議を行う際は各ユニットの係りが中心となって行うが、ユニット内の職員の協力が不可欠なので、職員にも情報を共有し協力を仰ぐ。

○年間スケジュール

4月～5月中旬 全体の約束事の確認（グループの行き来、ミーティングの使用、物のやりとり、外遊具の使い方 etc...）

<5月のGS会議で話し合われたことの確認。出た意見の共有。>

5月～6月中旬 施設入所児の権利について「何故施設で生活しているか」

<6月のGS会議で話し合われたことの確認。出た意見の共有。>

8月～9月中旬 施設入所児の権利について「発言権、身の安全、知る権利等の話」

<9月のGS会議で話し合われたことの確認。出た意見の共有。>

11月～12月中旬 施設入所児の権利について「いじめ、暴力等の話」

<12月のGS会議で話し合われたことの確認。出た意見の共有。>

※GS会議で共有した意見で、全体で話し合う必要があると思われる案件に関しては、翌月の職員会議、もしくはケース会議で議題として取り上げ検討し、結果を子ども達に伝える。

※上記以外でも、長期休みや行事について話し合う等、適宜子ども達を集めた会議も実施する。

平成30年7月17日（火）グループ会議実施

○前回からの振り返り

- ・初回到話した内容（約束事やミーティングの使用について）は一通り子ども達と共有することができた。
- ・その際、子どもから「ミーティングの使用について」の紙をミーティングの壁に貼っておいてほしいとの要望があった（忘れないように）。
- ・今年度進めようとしている「児童の権利手帳」の有無が子どもによってまちまちであるため確認を進めているが、入所以降確認していないことが多く、見当たらない子どもがいたり、そもそも貰っていたのかを覚えていなかったりする。

- ・児童の権利手帳を児童相談所の職員に持って来てもらえないか。その時に、普段あまり園に顔を出せない職員の方と担当児童が話せる場を作った方が良いだろう。

○今後の方針

- ・夏休み期間中に各児童相談所の担当職員に連絡を取り、来園して子どもと話す機会を作り、その際に子どもの権利手帳を再度配布してもらえよう依頼する。
- ・G 支援会議は毎月行われるわけではない。空いた時間に積極的に情報を共有して進めていかないと何もできずに年度が終わってしまうので、今後はもっと積極的に動く。
- ・係りの人間が減ってしまったが、そよかぜグループにも子ども会議のことが広がるようにする。

平成 30 年 10 月 23 日 (火) グループ会議実施

○前回からの振り返り

- ・約束事やミーティングの使用について一通り子ども達と共有して以降、特に変更点等はない。子どもから要望のあった「ミーティングの使用について」の紙はミーティングの壁に貼った。
- ・今年度進めようとしていた「児童の権利手帳」について、県南児童相談所で巡回相談に来た担当者の方に人数分持ってきてもらうよう依頼したが、届く気配はない。比較的来所の多い県北、中央の方に連絡した方が良いのか、来年度のキャラバンに合わせて持ってきてもらい、その際に児童相談所の担当から話をしてもらうのが良いのか、県南児童相談所の職員の方によると児童相談所でも「児童の権利手帳」をどのように使っていくかという話になっているようなので少し動向を見守ることにする。
- ・以上の事を振り返りつつ、メンバー間で改めて共有した。
- ・前回の会議から意見箱に投書があったことを共有。詳細は別紙（苦情受付ファイル）。

○今後の方針

- ・引き続き各グループ内で上がった要望や議題等、子ども達の意見を積極的に聞いていく。
- ・子どもの権利手帳について児童相談所へ連絡をし、来年度以降の実施に向けて計画を立てる。
- ・意見箱の確認

平成 31 年 1 月 15 日 (火) グループ会議実施

○子ども会議のあり方

- ・各グループで日々起こることについて話をした際、そこでのやり取りを子ども会議担当職員に共有して欲しい。各月に行われる GS 会議ではそれらの内容をまとめ、今後の園全体の方針に関わる事案については協議し、各グループに伝達するようにする。
- ・「児童の権利手帳」については、それ以降音沙汰なしなので保留。子どもの権利擁護を考えるには必要な流れだと思うので、来年度初めから動けるように各児童相談所に連絡しておく。
- ・前回の会議から意見箱に投書があったことを共有。詳細は別紙（苦情受付ファイル）。
- ・意見箱は毎月、職員会議の日とケース会議の日の中を確認し、園長に報告する（苦情受付ファイルの拍子裏

にチェック表つけておきます)。

- ・子ども達が不満を出して、それに大人がちゃんと向き合っただけという関わりの場として子ども会議を続けていってほしい。規模はどうあれ、子どもの不満を出せる場の確立。

○今後の方針

- ・意見箱は今後ローテーションで月2回確認をする。
- ・子ども会議の実施。

平成31年3月20日(水) グループ会議実施

○子ども会議の場を設ける

- 3/28(木) 小学生13:00～ 三ツ俣、手塚、福田恵
中学生19:00～ 三ツ俣、竹村、齋藤千

③食育会議グループ

給食

嗜好調査を行い、子ども達の声聞きながら新しいメニューも取り入れた。

朝食・夕食のグループで作れるものはグループで作って、食べることによって、家庭的な環境で会話を楽しみながら食事が出来、団欒する事が出来る様になった。また余った食材等も次の食事に回したり工夫する事によって残食もかなり減った。子どもたちも卵料理などの簡単な調理は進んで行う様子が多く見られた。今後も食事のマナーなどについて、幼児の内から身につけられるよう支援していきたい。

また今後も引き続き、子ども達が楽しく食事が出来る食卓づくりを目標として行きたい。

食育会議グループ

- ・食育会議のメンバーで毎月の献立を確認し合っている。
- ・子ども達に朝夕のメニューを立てる機会を設けた。(各ユニットで一週間のメニューを決める) その結果、始めたばかりの頃は肉中心のメニューになってしまっていたが徐々に魚や野菜を多く使ったメニューを作ってくれ、バランスの良い食事の在り方を学ぶ結果になった。
- ・畑で栽培した野菜を収穫して、メニューに取り入れることによって子ども達も積極的に野菜を食べてくれるようになり収穫するのを楽しみにしている様子が見れるようになった。
- ・食育の一環として新生姜ミュージアム、グリコピア・イーストの工場見学を行った。

④生活支援グループ会議

○第一回(4月18日)

- 子ども玄関傘立ての整理(壊れている傘の処分、不要となった傘を各グループへ報告)

- 子ども玄関の靴箱整理（グループ毎に子どもの名前の張り替え）
- 通路の窓拭き（子ども玄関口の掃き掃除）

○第二回（7月17日）

- 日用品で購入する物について…各グループ購入か、日用品係りで購入か検討。
結果…管理棟や共有場所で消耗する品（トイレ掃除用具など）は日用品係り購入。
…各グループで消耗する品（グループのトイレ、お風呂、洗濯石鹸など）はグループ購入。

○第三回（10月23日）

- 年末に向けて大掃除の準備。
- 手洗い、うがいの励行を各グループへお願い。
- ミーティングルームの玩具、本の整理。
- 子ども玄関の傘立て整理（月一回実施）。
- 子ども玄関の靴箱整理。

○第四回（1月15日）

- 各グループ、共有スペースのカーテンフック購入／修繕。
- 子ども玄関のビス修繕。
- 全エアコンフィルターの掃除。
- 親子生活訓練室の障子貼り換え。

○第五回（3月20日）

- 日常点検チェックリスト作成し、リストに基づき清掃／点検を実施。
- カーテンレースの破れ確認（そよかぜグループ9号室、10号室）

【反省】

- 係りとして時間をつくる工夫を一人一人が必要。
- 目に見えている部分だけではなく、全体的に定期的な確認、点検を行う必要がある。
- 子ども玄関の壊れた傘や履かれていない靴の確認意識が低かった。
- 点検リストを作成した事で漏れがなくなった。
- 環境整備、消防関係、自転車係りなど連携し合い、生活支援グループとして行える役割を作り出していけると、今後“何が出来るか”が見えてくる。

9. 総括

今年度は年間を通して女兒の入所の少ない一年であった。一時保護所の傾向としても男児が多く、女兒が少ないとの事であったため、年間を通して女兒ユニットの空きがあった。また処遇面においては高校生女兒の行動に振り回されることの多い年であった。高校への行き渋り、深夜徘徊等が多くみられ支援にたいへん苦慮した一年であった。しかしながら一つ一つの積み重ねが職員としての資質の向上に繋がるものと捉え今後に生かしていきたい。また退所した児童が、就職先で不調となり1か月間付きっきりで支援し、借金などもすべて整理し再就職させたが1週間もしないうちにまた職場を去ってしまったり、また別の児童は、思春期の異性交遊に悩み心身ともに不調に陥ってしまうなどアフターケアにもたいへん苦慮した年であった。尚一層のインケアからリービングケアの重要性そしてアフターケアの難しさを痛感させられた。

今後「新しい社会的養育ビジョン」によると長期間の入所は善しとしていない面もあるため、短期間での養育となり、関係性を構築することは益々難しくなってしまうに違いない。長期入所するよりも短期間のうちに家庭復帰できれば、これに勝るものはないことも十分承知はしているが、一朝一夕にできるものばかりでなく、時間を重ねることで子どもも親も成長するといったことも多いため時間をかけることの重要性等も考慮し、我々はさらに丁寧に関わりながら、子どもの成長に寄与していきたい。